

CM1164

日本語版ユーザーマニュアル



本ドキュメントについて

本書は ATEN ジャパン株式会社において、CM1164 取り扱いの便宜を図るため、英語版ユーザーマニュアルをローカライズしたドキュメントです。

製品情報、仕様はソフトウェア・ハードウェアを含め、予告無く変更されることがあり、本日本語版ユーザーマニュアルの内容は、必ずしも最新の内容でない場合があります。また製品の不要輻射仕様、各種安全規格、含有物質についての表示も便宜的に翻訳して記載していますが、本書はその内容について保証するものではありません。

製品をお使いになるときは、英語版ユーザーマニュアルにも目を通し、その取扱方法に従い、正しく運用を行ってください。詳細な製品仕様については英語版ユーザーマニュアルの他、製品をお買い上げになった販売店または弊社テクニカルサポート窓口までお問い合わせください。

ATEN ジャパン株式会社

技術部

TEL :03-5615-5811

MAIL :support@atenjapan.jp

2015 年 4 月 2 日

ファームウェア Ver. 1.1. 105 版

ユーザーの皆様へ

本マニュアルに記載された全ての情報、ドキュメンテーション、および製品仕様は、製造元である ATEN International により、予告無く変更されることがあります。製造元 ATEN International は、製品および本ドキュメントに関して、品質・機能・商品性および特定の目的に対する適合性について、法定上の、明示的または黙示的であるかを問わず、いかなる保証もいたしません。

弊社製品は一般的なコンピューターのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。高度な動作信頼性と安全性が求められる用途、例えば軍事使用、大規模輸送システムや交通インフラの制御、原子力発電所、セキュリティシステム、放送システム、医療システム等における可用性への要求を必ずしも満たすものではございません。

キーボード、マウス、モニター、コンピューター等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予期できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。

本製品および付属のソフトウェア、ドキュメントの使用によって発生した装置の破損・データの損失等の損害に関して、直接的・間接的・特殊な事例・付帯的または必然的であるかを問わず、弊社の損害賠償責任は本製品の代金相当額を超えないものとします。

製品をお使いになる際には、製品仕様に沿った適切な環境、特に電源仕様についてはご注意のうえ、正しくお使いください。

ATEN ジャパン製品保証規定

弊社の規定する標準製品保証は、定められた期間内に発生した製品の不具合に対して、すべてを無条件で保証するものではありません。製品保証を受けるためには、この『製品保証規定』およびユーザーマニュアルをお読みになり、記載された使用法および使用上の各種注意をお守りください。

また製品保証期間内であっても、次に挙げる例に該当する場合は製品保証の適用外となり、有償による修理対応といたしますのでご注意ください。

- ◆ 使用上の誤りによるもの
- ◆ 製品ご購入後の輸送中に発生した事故等によるもの
- ◆ ユーザーの手による修理または故意の改造が加えられたもの
- ◆ 購入日の証明ができず、製品に貼付されている銘板のシリアルナンバーも確認できないもの
- ◆ 車両、船舶、鉄道、航空機などに搭載されたもの
- ◆ 火災、地震、水害、落雷、その他天変地異、公害、戦争、テロリズム等の予期しない災害によって故障、破損したもの
- ◆ 日本国外で使用されたもの
- ◆ 日本国外で購入されたもの

【製品保証手順】

弊社の製品保証規定に従いユーザーが保証を申請する場合は、大変お手数ですが、以下の手順に従って弊社宛に連絡を行ってください。

(1) 不具合の確認

製品に不具合の疑いが発見された場合は、購入した販売店または弊社サポート窓口にご連絡の上、製品の状態を確認してください。この際、不具合の確認のため動作検証のご協力をお願いすることがあります。

(2) 本規定に基づく製品保証のご依頼

(1)に従い確認した結果、製品に不具合が認められた場合は、本規定に基づき製品保証対応を行います。製品保証対応のご依頼をされる場合は、RMA 申請フォームの必要項目にご記入の上、『お客様の製品購入日が証明できる書類』を用意して、購入した販売店までご連絡ください。販売店が不明な場合は、弊社までお問い合わせください。

(3) 製品の発送

不具合製品の発送は宅配便などの送付状の控えが残る方法で送付してください。

【製品保証期間】

製品保証期間は通常製品/液晶ディスプレイ搭載製品で異なります。詳細は下記をご覧ください。

①通常製品	製品納品日～30日	初期不良、新品交換※1
	31日～3年間	無償修理
	3年以上	有償修理※2
②液晶ディスプレイ搭載製品	製品納品日～30日	初期不良、新品交換※1
	31日～2年間	無償修理
	2年以上	有償修理※2

※1…製品購入日から30日以内に確認された不具合は初期不良とし、新品交換を行います。初期不良の場合の送料は往復弊社にて負担いたします。

※2…有償修理の金額は別途製品を購入された販売店までお問い合わせください。

※ケーブル類、その他レールキット等のアクセサリ類は初期不良の際の新品交換のみ、承ります。

※EOL (生産終了)が確定した製品については、初期不良であっても無償修理対応とさせていただきます。また EOL 製品の修理に関して、上記無償修理期間中であっても、部材調達の都合等により修理不可になる可能性がございます。そのような場合には、機能同等品による良品交換のご対応となる可能性がございます。

【補足】

- ・本規定は ATEN 製品に限り適用します。
- ・ケーブル類は初期不良対応に準じます。
- ・初期不良による新品交換の場合は、ATEN より発送した代替品の到着後、5 営業日以内に不具合品を弊社宛に返却してください。返却の予定期日が守られない場合は弊社から督促を行います。それにも係わらず不具合品が返却されない場合は、代替機相当金を販売代理店経由でご請求いたします。
- ・ラベルの汚損や剥がれなどにより製品のシリアルナンバーが確認できない場合は、すべて有償修理とさせていただきます。

【免責事項】

1. 弊社製品は一般的なコンピューターのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。高度な動作信頼性と安全性が求められる用途、例えば軍事使用、大規模輸送システムや交通インフラの制御、原子力発電所、セキュリティシステム、放送システム、医療システム等における可用性への要求を、必ずしも満たすものではございません。
2. キーボード、マウス、モニター、コンピューター等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予期できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。
3. 他社製品のKVMスイッチ、キーボード・マウスコンバーター、キーボード・マウスエミュレーター、KVM エクステンダー等との組み合わせはサポート対象外となりますが、お客様で自己検証の上であれば、使用を制限するものではありません。
4. 製品に対しての保証は、日本国内で使用されている場合のみ対象とさせていただきます。
5. 製品やサービスについてご不明な点がある場合は、弊社技術部門までお問い合わせください。

製品についてのお問い合わせ

製品の仕様や使い方についてのお問い合わせは、下記窓口または製品をお買い上げになった販売店までご連絡ください。

購入前のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 営業部 TEL:03-5615-5810 MAIL:sales@atenjapan.jp
購入後のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 技術部 TEL :03-5615-5811 MAIL :support@atenjapan.jp

目次

ユーザーの皆様へ	i
ATEN ジャパン製品保証規定	ii
製品についてのお問い合わせ	v
FCC.....	5
RoHS.....	6
SJ/T 11364-2006	6
安全にお使い頂くために.....	7
全般	7
同梱品.....	9
本マニュアルについて.....	10
マニュアル表記について.....	11
第1章 はじめに.....	12
概要	12
特長	14
システム要件.....	16
コンソール.....	16
コンピューター	16
ケーブル	16
オプション品.....	16
OS.....	17
オンスクリーンディスプレイ(OSD) 言語	17
製品各部名称	18
フロントパネル	18
リアパネル.....	20
IRリモコン	21
第2章 セットアップ方法.....	23
ラックに取り付けてセットアップする場合	23
製品の接地方法	25
単体構成でセットアップする場合	25
接続図(単体構成)	26
デイジーチェーン接続.....	27

第 3 章 基本操作	30
概要	30
ポート ID 番号の割り当て	30
切替方法	31
手動による切替.....	31
ホットキーによる切替.....	34
リモコンによる切替.....	34
OSD による切替.....	35
ディスプレイモード	36
クワッドビュー (4分割表示).....	37
ピクチャ・イン・ピクチャ - デュアル.....	38
ピクチャ・イン・ピクチャ - トリプル.....	39
ピクチャ・イン・ピクチャ - クワッド.....	40
ディスプレイモードの解像度.....	41
Fn プッシュボタン	42
電源 OFF と再起動	43
USB リセット	43
デフォルト値のリストア	43
第 4 章 キーボードによるポート操作	44
OSD の起動	44
ハードウェアカーソルモード有効時での OSD の起動.....	44
ホットキーセッティングモード	45
ホットキーセッティングモードの起動.....	45
オートスキャン.....	47
ディスプレイモード.....	48
Fn キー.....	48
現在の KVM 設定の一覧表示.....	49
USB リセット.....	49
ビデオダイナシンク.....	49
ポート切替.....	50
工場出荷時におけるデフォルトホットキーおよび設定	50
第 5 章 チャンネルエディター	51
概要	51
チャンネルエディターの起動	51
チャンネルエディターのマウス操作.....	53
チャンネルエディターコントロールパネル.....	56

第 6 章 OSD 操作	58
概要	58
OSD 操作およびメニュー	60
ポートの選択.....	63
モードの選択	64
ディスプレイモード.....	64
ディスプレイモードの設定	67
チャンネルの無効.....	67
4 分割表示の解像度.....	68
スタートアップディスプレイモード	69
DCC	70
システム設定	71
システム	71
ハードウェアカーソルモード.....	72
OSD ホットキー	73
ホットキーセッティングモード.....	73
ビデオダイナシンク.....	74
ビープ音有効.....	75
ポート ID 表示	76
OSD 言語	76
キーボード言語.....	77
オートスキャン.....	77
セキュリティ.....	78
KVM ステータス.....	80
DCC コントロール.....	80
コンピューター	81
キーボードエミュレーション	81
マウスエミュレーション	82
電源検知機能	82
OS の設定	83
USB リセット.....	83
設定	84
Fn キー	84
デフォルト値へのリストア	86
ファームウェアアップグレード.....	86
OSD 設定のバックアップ/リストア.....	87

ヘルプ	91
チャンネルID	92
第7章 ファームウェアのアップグレード.....	94
作業を始める前に	94
アップグレードの開始.....	95
アップグレード成功.....	97
アップグレード失敗.....	97
付録.....	98
製品仕様.....	98
トラブルシューティング	100
OSD アクセス権限の一覧表.....	102
ディスプレイモードの切替方法一覧表.....	104
ファンクション(Fn)キー設定方法一覧表	105
Mac キーボードエミュレーション	106
Sun キーボードエミュレーション.....	107

FCC

FCC(連邦通信委員会)電波干渉声明

本製品は、FCC(米国連邦通信委員会)規則の Part15 に準拠したデジタル装置 Class A の制限事項を満たして設計され、検査されています。この制限事項は、商業目的の使用において、有害な障害が発生しないよう、基準に沿った保護を提供する為のものです。この操作マニュアルに従わずに使用した場合、本製品から発生するラジオ周波数により、他の通信機器に影響を与える可能性があります。また、本製品を一般住宅地域で使用した場合、有害な電波障害を引き起こす可能性もあります。その際には、ユーザーご自身の負担で、その障害を取り除いてください。

本製品は、FCC(米国連邦通信委員会)規則の Part15 のデジタル装置 Class A の規定に準拠しています。動作は次の2つの条件を前提としています。(1)本製品による有害な干渉が発生しない。(2)本製品は、予想外の動作を引き起こす可能性のある干渉を含め、受信した干渉を全て受け入れる。

FCC による注意:本コンプライアンスに対する責任者による明確な承認を得ていない変更または改良を行った場合は、ユーザーの本装置を操作する権利を無効とします。

CE による注意:本製品は Class A に準拠した製品です。本製品をご家庭で使用した場合、電波干渉を引き起こす可能性があります。その際は、ユーザーご自身にて、適切な処置を行ってください。

KCC Statement

유선 제품용 / A 급 기기 (업무용 방송 통신 기기)

이 기기는 업무용 (A 급) 전자파적합기기로서 판매자 또는 사용자는 이 점을 주의하시기 바라며, 가정 외의 지역에서 사용하는 것을 목적으로 합니다.

RoHS

本製品は『電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する欧州議会及び理事会指令』、通称 RoHS 指令に準拠しております。



SJ/T 11364-2006

SJ/T 11364-2006

The following contains information that relates to China.

部件名称	有毒有害物质或元素					
	铅	汞	镉	六价铬	多溴联苯	多溴二苯醚
电器部件	●	○	○	○	○	○
机构部件	○	○	○	○	○	○

- : 表示该有毒有害物质在该部件所有均质材料中的含量均在SJ/T 11363-2006规定的限量要求之下。
- : 表示符合欧盟的豁免条款，但该有毒有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出SJ/T 11363-2006的限量要求。
- ×: 表示该有毒有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出SJ/T 11363-2006的限量要求。

安全にお使い頂くために

全般

- ◆ 本製品は、屋内での使用に限ります。
- ◆ 製品に同梱されるドキュメントは全てお読みください。またドキュメント類は全て保存してください。また、弊社 Web サイトに掲載のオンラインユーザーマニュアルもご確認ください。
- ◆ 製品に関する注意・説明に従って取り扱ってください。
- ◆ 落下による事故・製品の破損を防ぐため、設置場所は不安定な面(台車、簡易的なスタンドやテーブル等)を避けるようにしてください。
- ◆ 製品が水に濡れるおそれのあるような場所で使用しないでください。
- ◆ 製品は熱源の近く、またはその熱源の上などで使用しないでください。
- ◆ 製品のケースには必要に応じて通気口が設けられています。通気口のある製品は、安定した運用を行うため、また製品の過熱を防ぐために、開口部を塞いだり覆ったりしないでください。
- ◆ 製品をベッドやソファ、ラグなどの柔らかいものの上に置かないでください。開口部が塞がれ、適切な通気が確保できずに製品が過熱する恐れがあります。
- ◆ 製品にいかなる液体もかからないようにしてください。
- ◆ 電源プラグを電源コンセントから抜く場合は、乾いた雑巾でプラグ周りのホコリを掃除してください。液体やスプレー式のクリーナーは使用しないでください。
- ◆ 製品はラベルに記載されたタイプの電源に接続して運用してください。電源タイプについて不明な場合は、購入された販売店もしくは電気事業者にお問い合わせください。
- ◆ お使いの装置への損傷を避けるためにも、すべての装置を適切に接地するようにしてください。
- ◆ 製品付属の電源ケーブルは安全のために 3 ピンタイプのプラグを使用しています。電源コンセントの形状が異なりプラグを接続できない場合には電気事業者に問い合わせ適切に処置してください。アース極を無理に使用できない状態にしないでください。使用される国/地域の電源形状に従ってください。
- ◆ 電源コードやケーブルの上に物を置かないでください。人が通行するような場所避けて電源コードを設置してください。
- ◆ 電源の延長コードや電源タップを使用する場合は、合計容量とコードまたはタップの仕様が適合していることを確認してください。電源コンセントにつながれている製品全ての合計アンペア数は 15 アンペアを超えないようにしてください。
- ◆ 突然の供給電力不安定や電力過剰・電力不足からお使いのシステムを守るために、サージサプレッサー、ラインコンディショナー、または無停電電源装置(UPS)をご使用ください。

- ◆ システムケーブルや電源ケーブルは丁寧に取り扱いってください。これらのケーブル類の上には何も置かないようにしてください。
- ◆ 危険な電圧ポイントへの接触やショートによって、発火したり感電したりするおそれがありますので、キャビネットのスロットには何も挿入しないでください。
- ◆ 装置をご自身で修理せず、何かありましたら技術サポートまでご相談ください。
- ◆ 下記の現象が発生した場合、コンセントをはずして技術サポートに修理を依頼してください。
 - 電源コードが破損した。
 - 装置の上に液体をこぼした。
 - 装置が雨や水にぬれた。
 - 装置を誤って落下させた、ないしはキャビネットが破損した。
 - 装置の動作に異変が見られる。(修理が必要です)
 - 製品マニュアルに従って操作しているにもかかわらず、正常に動作しない。
- ◆ 技術サポートの修理が必要となる故障が発生するおそれがありますので、製品マニュアルに従って操作してください。

同梱品

CM1164 製品パッケージには下記のアイテムが同梱されています。

- ◆ CM1164 USB2.0 ハブ搭載 4 ポート DVI モニター分割切替器 ×1
- ◆ KVM ケーブル(ケーブル長 1.8m、コネクタ:シングルリンク DVI-D×1、USB2.0×1、2.1ch オーディオ×2) ×4
- ◆ IEC320 電源ケーブル ×1
- ◆ IR リモコン ×1
- ◆ 多言語版クイックスタートガイド ×1

上記のアイテムがそろっているかご確認ください。万が一、欠品または破損品があった場合はお買い上げになった販売店までご連絡ください。

本ユーザーマニュアルをよくお読みいただき、正しい使用方法により、本製品および接続する機器を安全にお使いください。

本マニュアルについて

このユーザーマニュアルは、CM1164 に関する情報や使用法について説明しており、取り付け・セットアップ方法、操作方法のすべてを提供します。

マニュアル構成は下記のようになっています。

第1章 はじめに:CM1164 を紹介します。特長および機能の概要および製品各部名称について説明します。

第2章 セットアップ:CM1164 のセットアップ手順について図を用いながら説明します。

第3章 基本操作:CM1164 の機能概要および操作方法について説明します。

第4章 キーボードによるポート操作:CM1164 のホットキーに関する機能概要、および操作手順について説明します。

第5章 チャンネルエディター:チャンネルエディターモードに関する機能や操作方法について説明します。

第6章 OSD 操作:CM1164 の OSD (オンスクリーンディスプレイ) の詳細内容、および操作方法について説明します。

第7章 ファームウェアアップグレード:お使いの CM1164 のファームウェアを最新のバージョンにアップグレードする方法について説明します。

付録 製品の仕様および関連する技術情報や操作方法について説明します。

マニュアル表記について

[] 入力するキーを示します。例えば[Enter]は**エンター**キーを押します。複数のキーを同時に押す場合は、[Ctrl + Alt]のように表記してあります。

1. 番号が付けられている場合は、番号に従って操作を行ってください。

◆ ◆印は情報を示しますが、作業の手順を意味するものではありません。

→ 矢印は操作の手順を示します。例えばStart → Runはスタートメニューを開き、Run を選択することを意味します。



重要な情報を示しています。

※本マニュアルに記載されている商品名・会社名等は、各社の商標ならびに登録商標です。

第1章 はじめに

概要

制御室での操作効率を向上させるために、より多くのコンピューターを同時に監視して管理することができるような便利な方法が求められています。また、余分なキーボードやマウス、モニターをなくして、省スペースを実現できるようなソリューションが求められています。

CM1164 USB2.0 ハブ搭載 4 ポート DVI モニター分割切替器は、4 ポート DVI-D KVM スイッチに 2 ポートの USB ハブを組み合わせ、「4 分割表示モード」(1 つの画面に 4 台の DVI-D 対応 PC/ビデオソースの画面を同時に表示)、「ピクチャ・イン・ピクチャモード」(デュアル、トリプルまたはクワッド分割表示)といったディスプレイモード機能 (p.36「ディスプレイモード」参照)を搭載することによって、KVM スイッチの機能に革新的な方向性を打ち出しています。コンピューターとビデオソースの操作および切替方法にはいくつかの方法があります。下記の便利なアクセス方法を使用して、コンソールディスプレイで見たいソースを簡単に選択することができます。1) フロントパネルのプッシュボタン、2) IR リモコン、3) OSD、4) コンソールキーボードからのホットキー入力。

CM1164 を使用すれば、ユーザーは 1 箇所のコンソール (USB キーボード、USB マウス、DVI-D モニター) から 4 台のコンピューター/デバイスにアクセスすることができます。また USB ハブとして、各コンピューターから 1 度に 1 台の原則で、スイッチに接続している周辺機器にアクセスすることができます。CM1164 の個別切替機能を使用すれば、あるコンピューターで KVM 操作を行いながら、別のコンピューターで USB 周辺機器を使用することができます。したがって、USB ハブやスタンドアロンの周辺機器共有機を別途購入する必要はありません。

CM1164 は以前の DVI-D コネクターデザインをさらに改良し、より早く、信頼性のある USB 接続を通じて、キーボードとマウスの信号をコンピューターに送信できるようにしました。USB 周辺機器と同様に、オーディオも KVM 操作とは別に個別切替を行うことができます。

ユーザーはデジィチェーンコントロール (DCC) ポートを使用すれば、4 台までの CM1164 を接続して 1 箇所のコンソールから操作することができます。つまり、数台のコンピューターや他の CM1164 を操作するのに使用するキーボード・マウスは 1 台だけですみます。本製品を最大 4 台デジィチェーン接続し、16 台までのコンピューター/ビデオソースを切り替えることができる

ので、より多くのコンピューターを監視して管理する必要があり、なおかつ拡大していくネットワークにとって便利な機能となっています。

セットアップは適切なポートにケーブルを接続するだけなので、早く簡単に行うことができます。設定のためのソフトウェアも不要であるため、セットアップや相性問題に悩まされることはありません。また、CM1164 はキーボード信号が直接入力されるように設計されているため、Microsoft Windows、Linux、Sun および Mac を使用したマルチ OS 環境でもご使用いただけます。

さらに、USB インターフェースを使用してファームウェアをアップグレードさせることができますので、ご使用の CM1164 の更新手順を簡単かつ確実に行うことができます。

CM1164 USB2.0 ハブ搭載 4 ポート DVI モニター分割切替器はユニークなデザインと革新的な機能を備えているため、制御室、監視システム、交通管制センターや生産管理センター、サーバールーム、医療産業、放送業界、製造業、オートメーション、航空産業、自動車産業といった幅広い環境において、スタイルと高機能性をご提供することができます。プロジェクターと併用すれば、プレゼンや会議室で使用することも可能です。また、CM1164 は 4 台の DVI-D 対応 PC をスムーズに切り替えて、デュアルディスプレイコンソールから USB 周辺機器と高品位オーディオの共有ができるため、マルチメディア用途に最適で、究極の省スペースで、能率的な KVM テクノロジーをご提供いたします。

特長

- ◆ 1 箇所の USB コンソールから DVD-D インターフェースのコンピューター4 台と 2 つの USB ポートに接続したデバイスを個別に同時操作可能
- ◆ USB2.0 ハブを 2 ポート搭載。USB2.0 仕様準拠
- ◆ 4 分割表示モード、ピクチャ・イン・ピクチャモード(デュアル、トリプルまたはクワッド分割表示)やフルスクリーンモードを含むディスプレイモードを使用して、1 画面に最大 4 台のビデオソースが表示できるマルチビューコンソール機能搭載
- ◆ OSD メニューから機能操作可能 - ディスプレイモード、ポート選択、デイジーチェーン接続等
- ◆ DCC(デイジーチェーン制御)ポート搭載 - ユーザーは最大 4 台の CM1164 に接続し、1 箇所のコンソールからキーボードとマウスを使ってコンピューターや別の CM1164 を操作可能^{*1}
- ◆ ハードウェアカーソル - コンソールのマウスを使った OSD 操作
- ◆ チャンネルエディター機能 - ディスプレイモードでのコンピューターの表示位置や大きさをマウスで簡単に変更
- ◆ ポート切替方法 - フロントパネルのプッシュボタン、ホットキー、IR リモコン、OSD(マウス^{*2} 機能有効時に利用可)
- ◆ コンソールマウスポートエミュレーション/バイパス機能対応で、ほとんどのマウスドライバーと多機能マウスに対応
- ◆ コンソールキーボードエミュレーション/バイパス機能対応で、ほとんどの多機能キーボードに対応
- ◆ KVM、USB、オーディオは個別切替に対応
- ◆ 解像度 - 最大 1,920×1,200
- ◆ ビデオダイナシンク(ディスプレイエミュレーション) - ブート時のディスプレイ問題を回避し、ポートを切り替えても最適な解像度で表示できる ATEN 独自技術搭載
- ◆ コンピューターの USB ポート経由でファームウェアアップグレードが可能
- ◆ 電源状態検知機能 - コンピューターの電源が OFF になると、電源が入っているコンピューターに自動切替
- ◆ オートスキャンモード
- ◆ ベースレスポンスに優れた 2.1ch サラウンドオーディオ出力
- ◆ マルチプラットフォーム対応 - Windows、Linux、Mac、Sun
- ◆ 多言語キーボードマッピング - 日本語、英語、フランス語対応
- ◆ Mac/Sun キーボードエミュレーション対応^{*3、*4}

※1 モニターのデイジーチェーン接続には対応していません。

※2 3 ボタンマウスの使用時に限ります。

※3 PC/AT キーボードでもキーの組み合わせで Sun/Mac キーボードの特殊キー入力ができます。

※4 Mac・Sun 用キーボードも使用できます (Windows マシンでは特殊キーが効きません)。

* 対応 DVI-D ケーブルの最大の長さは 5m です。

* 対応映像データは RGB のみで、YCbCr 非対応となります。

システム要件

コンソール

- ◆ DVI-D シングルリンク対応モニター ×1
- ◆ USB マウス ×1
- ◆ USB キーボード ×1
- ◆ マイクおよびスピーカー(オプション)

コンピューター

各コンピューターには以下のハードウェア環境が必要です。

- ◆ DVI ポート ×1

注意: 画質はビデオカードの品質に影響されますので、高品質な製品をご購入されることを推奨いたします。

- ◆ USB タイプ A ポート ×1
- ◆ ミニステレオジャックオーディオポート(オプション)

ケーブル

- ◆ 専用 KVM ケーブル(型番:2L-7DxxU シリーズ)
- ◆ IEC320 電源ケーブル
- ◆ デイジーチェーンコントロール用 UTP ケーブル(オプション)

オプション品

下記のオプション品もご利用可能です。詳細は販売代理店までお問い合わせください。

- ◆ IR レシーバー(型番:2XRT-0003G)
- ◆ ラックマウントキット

OS

本製品の対応 OS は下表の通りです。

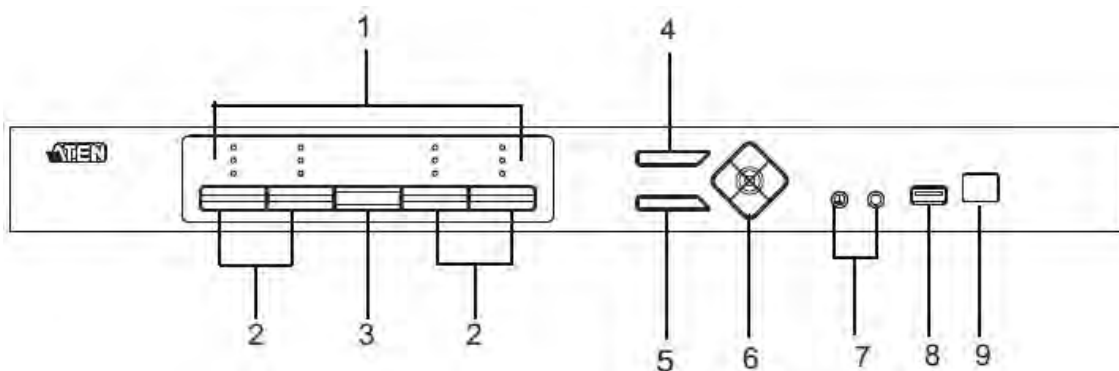
OS		バージョン
Windows		2000 以降
Linux	RedHat	6.0 以降
	SuSE	8.2 以降
UNIX	FreeBSD	3.51 以降
	Sun	Solaris 8 以降
Novell	Netware	6.0 以降
Mac		OS 9 以降

オンスクリーンディスプレイ(OSD) 言語

CM1164 の GUI のデフォルト言語は英語です。他には、日本語、フランス語、に対応しています。

製品各部名称

フロントパネル

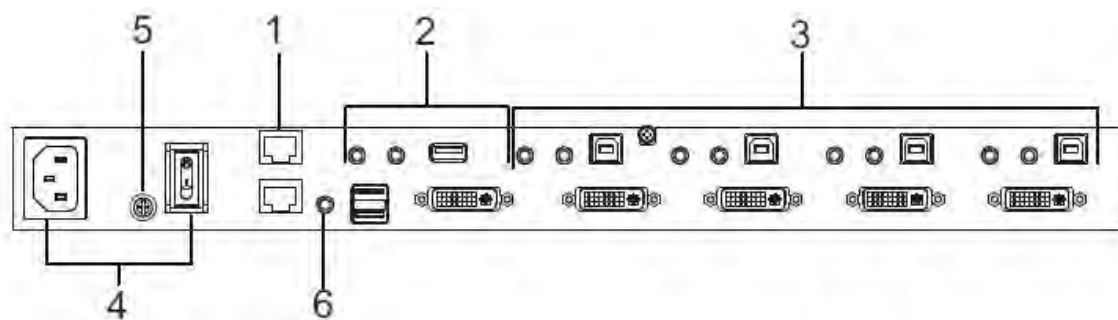


No.	名称	説明
1	LED ステータス パネル	ポートの状態を示す LED アイコンです。モードとポート選択ボタンには KVM 、 オーディオ および USB リンク の状態を示します。詳細は p.31「LED 表示」を参照してください。
2	ポート選択ボタン	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 手動でポートを切り替えるにはこのポート選択ボタンを押してください。 ◆ オートスキャンモードを開始するにはポート選択ボタン 1 と 2 を同時に 2 秒間押してください。詳細は p.47「オートスキャン」を参照してください。 ◆ KVM リセットを実行するにはポート選択ボタン 3 と 4 を同時に 2 秒間押してください。詳細は p.43「KVM リセット」を参照してください。
3	モード選択ボタ ン	このタッチパネルで、KVM 操作のみ、オーディオのみ、および USB のみの 3 つのモードを循環して切り替えます。詳細は p.31「手動による切替」を参照してください。
4	OSD(Esc)ボタン	オンスクリーンディスプレイ(OSD)メニューを起動するにはこのボタンを押してください。OSD メニューの起動中にこのボタンを押すと、1 つ前のメニュー/サブメニューに戻ります。
5	選択ボタン	OSD メニューのオプションを選択するにはこのボタンを押してください。OSD を表示していない時は、クワッドビューやピクチャ・イン・ピクチャモードに切替表示ができます。

(表は次ページに続きます。)

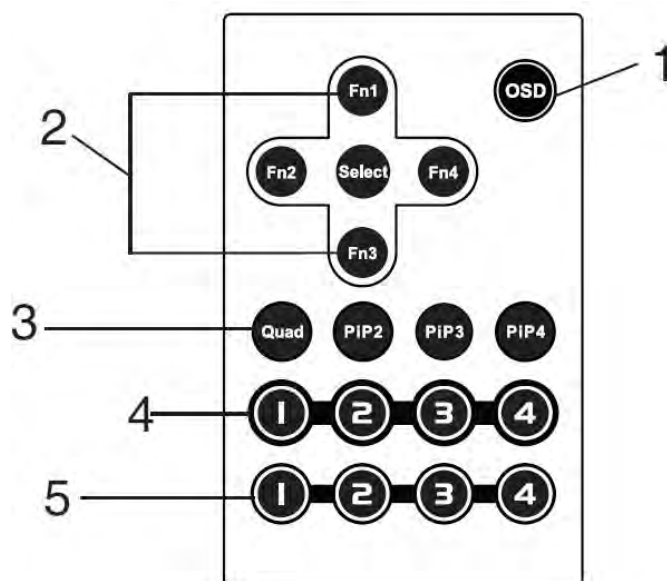
No.	名称	説明
6	方向/ファンクションボタン	ファンクションモード (Fn1 から Fn4) 間を切り替え、OSD メニュー/オプションを循環させるにはこのボタンを使用します。詳細は p.21「IR リモコン」を参照してください。
7	コンソールオーディオポート	スピーカーとマイクのプラグはここに接続してください (リアパネルにあるコンソールポートの音声出入力ジャックと同じです)。
8	USB2.0 周辺機器ポート	USB2.0 周辺機器 (プリンター、スキャナー等) をこのポートに接続してください。
9	IR レシーバー	IR リモコンからの信号をここで受信します。

リアパネル



No.	名称	説明
1	RS232 IN/OUT ポート	CM1164をデジチェーン接続する場合はこのポートを使用してください。最大4台まで接続することができます(p.27 参照)。
2	コンソールポート セクション	USB キーボード、USB マウス、DVI コンソールディスプレイ、USB 周辺機器、スピーカーおよびマイクのケーブルをここに接続します。
3	DVI KVM ポート セクション	コンピューター等の出力機器はこちらに接続してください。各 DVI KVM ポートにはマイクロフォンジャック、スピーカージャック、USB タイプ B コネクターと DVI シングルリンクコネクターがあります。 また、これらのポートに接続されたコンピューターからファームウェアアップグレードを開始することができます(p.94 参照)。
4	電源ソケット/電 源スイッチ	電源ケーブルを電源ソケットに接続してください。また本製品に電源を入れるにはこのスイッチを使用してください。
5	接地ターミナル	(本製品を接地するのに使用する)接地線はここに接続してください。
6	IR レシーバー延 長端子	フロントパネルの IR 受信部では IR 信号が届かない場所に設置する場合等は、別売品の IR レシーバー (型番:2XRT-0003G) と接続して延長させてください。

IRリモコン



No.	名称	説明
1	OSD ボタン	OSD メニューを ON/OFF するにはこのボタンを押してください。 OSD メニューの起動中にこのボタンを押すと、1 つ前のメニュー/サブメニューに戻ります。
2	Fn1/Fn2/Fn3/ Fn4 ボタンおよび 選択ボタン	ファンクションモード (Fn1 から Fn4) 間を切り替え、OSD メニュー/オプションを循環させるにはこのボタンを使用します。 後で使用する際に起動可能なファンクションモード設定の保存方法については、p.42「FN プッシュボタン」を参照してください。 Fn1～Fn4 ボタンはまた上/下/左/右方向にそれぞれ対応しています。 ◆ メニューオプションを選択中にサブメニューを選択するには選択ボタンを押してください。 ◆ 選択項目を変更する場合や値を調整する場合は、選択ボタンを押してから「Fn1」(上) / 「Fn2」(左) / 「Fn3」(下) / 「Fn4」(右) ボタンを押してください。選択項目を確定するには、もう一度選択ボタンを押してください。

(表は次ページに続きます。)

No.	名称	説明
3	ディスプレイモードボタン	使用するディスプレイモードを選択します。詳細は p.36「ディスプレイモード」を参照してください。
4	ポート選択ボタン 1～4	ポート(1～4)を切り替えるには、これらのボタンを押してください。
5	ステーション選択 ボタン	1～4 台の CM1164 をデジチェーン接続している場合、このボタンを押すと、該当する CM1164 の設定や操作を行うことができます。

第2章 セットアップ方法



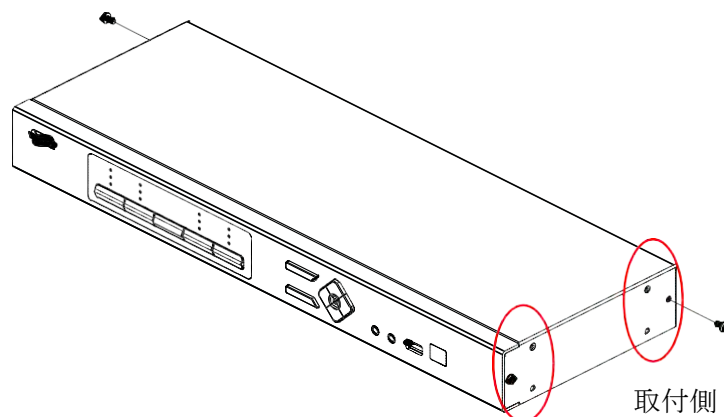
1. 機器の設置に際し重要な情報を p.7 に記載しています。作業の前に、必ず目を通してください。
2. 今から接続する装置すべての電源がオフになっていることを確認してください。コンピューターにキーボード起動機能がついている場合は、ここから電源ケーブルも抜いてください。

ラックに取り付けてセットアップする場合

CM1164 は利便性と柔軟性を持たせるために、別売品のラックマウントキットを使用して、システムラックにマウントすることができます。本製品をラックマウントするには下記の手順に従って作業を行ってください。

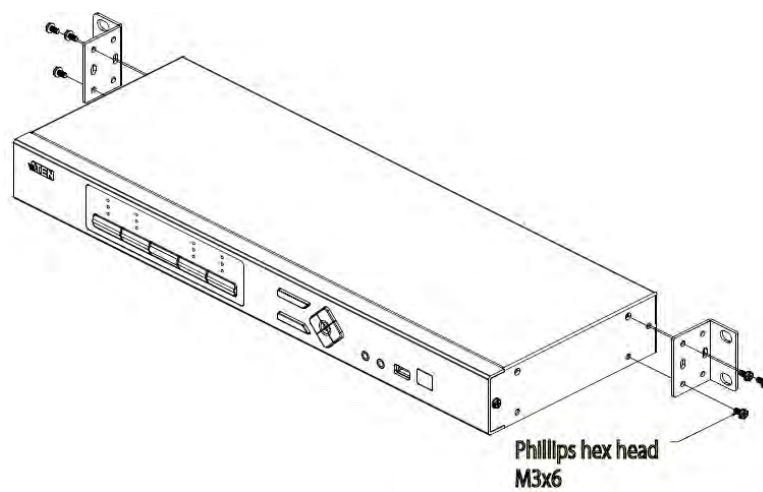
- 注意:**
1. ラックマウントキットは本製品に同梱されていません。詳細は販売代理店までお問い合わせください。
 2. ラックマウント用のケージナットとビスは、製品には同梱されていませんので、お使いのラックメーカー指定の物をご使用ください。

1. 下図のように本製品をラックに取り付ける側のネジを外してください。

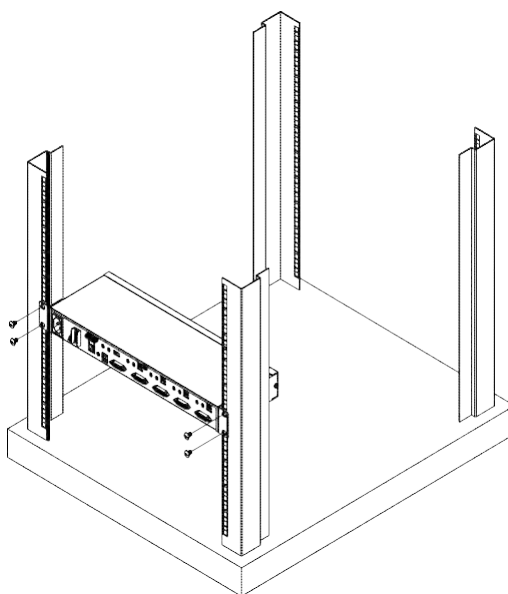


- 注意:** フロント側またはリア側のどちらでも取付が可能です。ここではリアパネル側をラックに取り付ける手順を表しています。

2. 別売品のラックマウントキット(本製品には同梱されていません)のネジを使用して、下図のように本製品の両サイドにラックマウントブラケットをネジ止めしてください。



3. ラックの任意の場所にネジ止めしてください。



製品の接地方法

ご使用の機器が破損するのを防ぐためにも、全ての機器に対して適切な接地を行うことが大切です。

注意： 接地線は本製品に同梱されていません。適切な接地線については販売代理店までお問い合わせください。

1. CM1164 を接地するには、接地線の一端を CM1164 の接地ターミナルに接続し、もう一端を適切な接地物に接続してください。
2. CM1164 に接続してくるコンピューター/デバイス全てが適切に接地されていることをご確認ください。

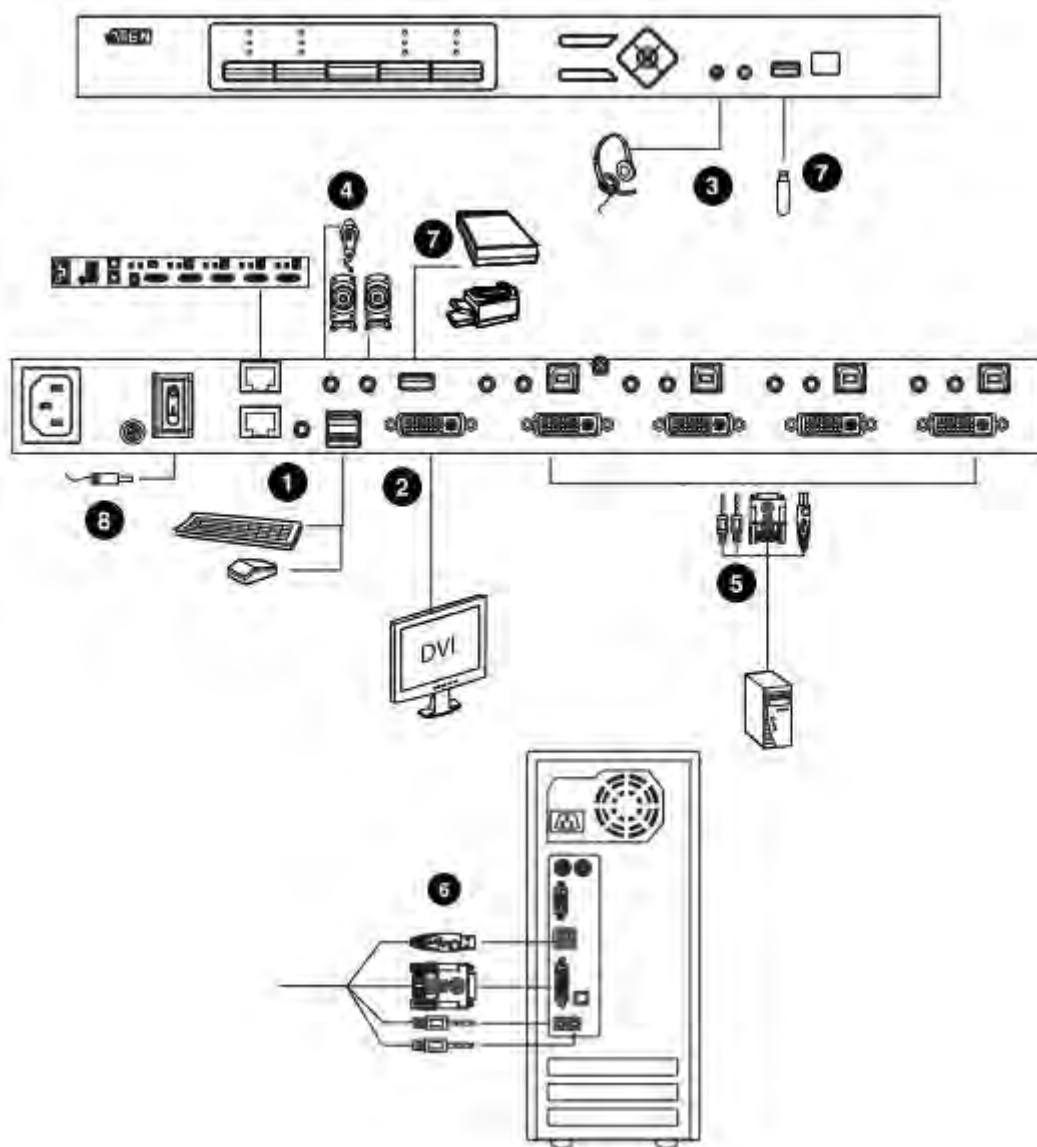
単体構成でセットアップする場合

CM1164 を 1 台で使用する場合は、p.26 の接続図(図内における番号は手順の番号に対応)を参考にし、以下の手順に従ってセットアップを行ってください。

1. USB キーボードと USB マウスを本製品のリアパネルにある USB コンソールポートに接続してください。
2. ディスプレイを本製品のリアパネルにあるコンソール DVI ポートに接続してください。
3. IP 電話ヘッドセットまたはマイクロフォンとスピーカーをご使用になる場合は、本製品のフロントパネルにあるアナログオーディオポートにそれらを接続してください。このオーディオポートはリアパネルにあるオーディオポートよりも優先的に使用されます。
4. 別個のスピーカーとマイクロフォンをご使用になる場合、本製品のリアパネルにあるアナログオーディオポートに接続してください。
5. 同梱のケーブルセットを使用して、本製品のリアパネルにあるポートにそれぞれ接続してください。
6. 手順 5 で接続したケーブルをコンピューターのポートにそれぞれ接続してください。
7. USB 周辺機器を本製品のフロントパネルもしくはリアパネルにある USB タイプ A ポートに接続してください。
8. 電源ケーブルを CM1164 の電源ジャックに接続してから、ケーブルの反対側を AC 電源に接続してください。
9. ディスプレイとコンピューター/デバイスの電源を入れてください。

注意： 弊社が推奨する電源投入順序は、モニター→本製品→ポート1→ポート2→ポート3→ポート4に接続されたコンピューターです。

接続図(単体構成)



デジチェーン接続

CM1164 を最大 3 台追加して、最大 16 台のコンピューター/ビデオソースデバイスを 1 箇所のコンソールから操作することができます。但し、ディスプレイについては、ビデオ信号をデジチェーン接続された他の CM1164 を経由して送信することができないため、デジチェーン接続された CM1164 それぞれに対して、ディスプレイを 1 台ずつ接続する必要があります。

デジチェーン接続を行う場合は、今から接続する機器全ての電源が入っていないことを確認してから、以下の作業を行ってください。

1. ストレート結線の LAN ケーブルを使用して、親機の RS232 OUT ポートの子機の RS232 IN ポートに接続してください(p.29「デジチェーン接続図」参照)

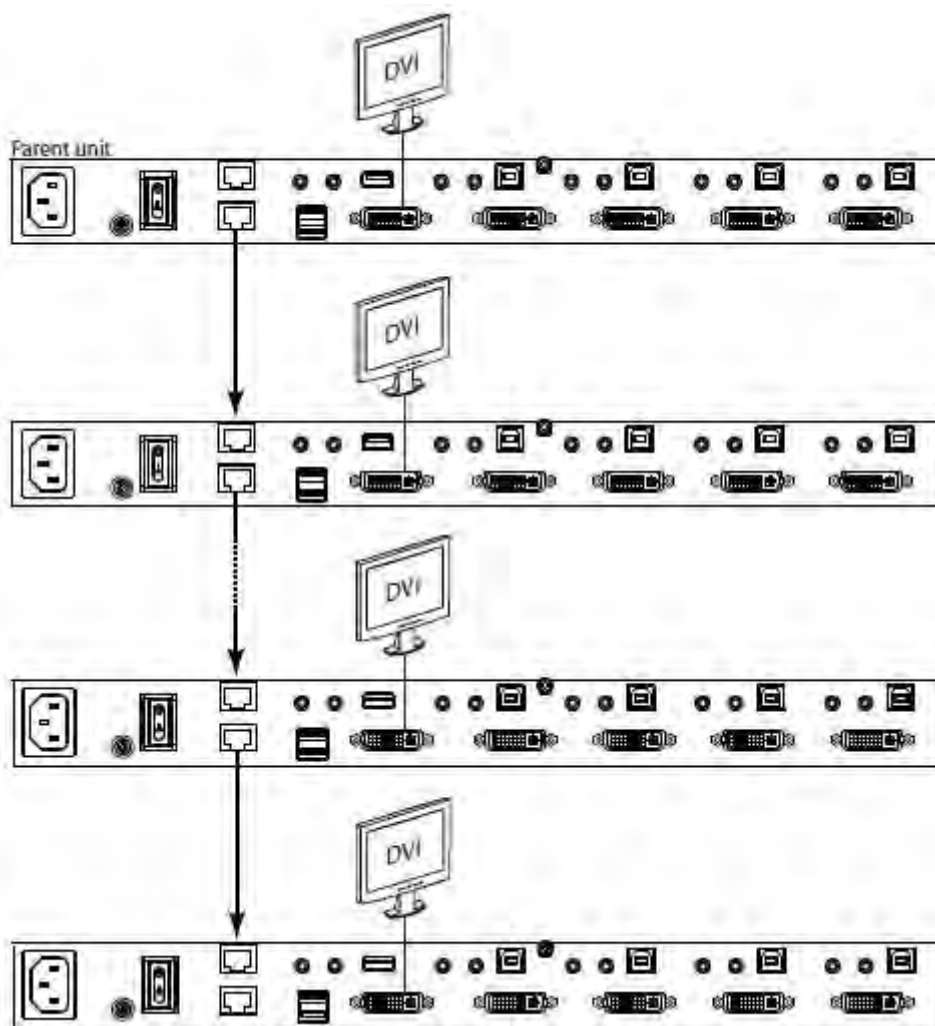
注意:

1. 1 番目のステーションは最高位となる親機であるため、RS232 IN ポートにケーブルを接続しないでください。
2. LAN ケーブルは別途ご購入ください。詳細は販売代理店までお問い合わせください。
3. デジチェーン接続時の CM1164 間の LAN ケーブル長について、CM1164 を 2 台および 3 台接続する場合は 150m、3 台接続する場合は 100m となります。

2. CM1164 のリアパネルにあるコンソール DVI ポートに DVI ディスプレイを接続してください。
3. p.25「単体構成でセットアップする場合」を参考にして、コンピューターと本製品を接続してください。
4. さらに CM1164 を(最大 3 台まで)追加してデジチェーン接続する場合は、上記手順を繰り返してください。
5. 機器に電源を入れます。1 番目のステーションに電源ケーブルを接続してから、順番に各ステーションの電源を入れてください(2 番目のステーション、次に 3 番目のステーションなど)。全てのステーションに電源が入ったら、コンピューター/ビデオソースデバイスの電源を入れてください。
6. コンピューターの切替時には、キーボードとマウス信号のみが接続されています。デジチェーン接続されたコンピューターの切替方法については、p.70「DCC」を参照してください。

-
- 注意:**
1. 2番目、3番目および4番目にデイジーチェーン接続されたCM1164に対してはIRリモコンで直接コントロールはできません。1番目(親機)のCM1164を経由してのみ、IRリモコンがご使用いただけます。
 2. 「クローン」機能(p.80「DCCコントロール」参照)を使用して、親機であるCM1164の設定内容を子機に対して複製することができます。
 3. 子機をデイジーチェーン接続から外す場合は、DCC OSDメニューにある「有効」のボックスからチェックを外してください。このオプションは子機にのみご利用いただけます(p.80「DCCコントロール」参照)。
-

デジチェーン接続図



第3章 基本操作

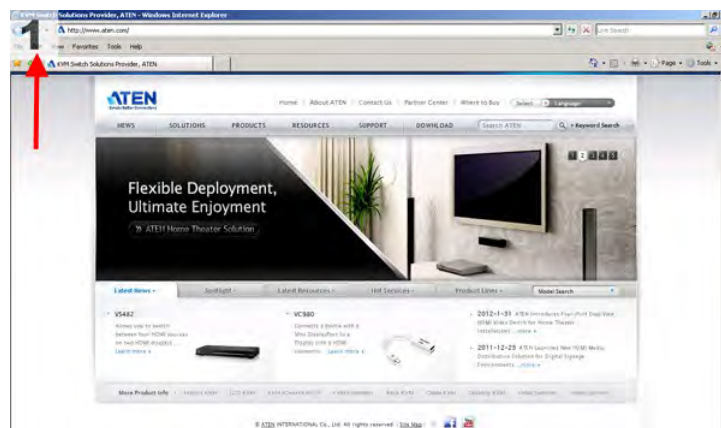
概要

本章では、CM1164 に接続されたコンピューターの切替方法や表示方法に関する基本的な概念について説明します。

ポート ID 番号の割り当て

コンピューターを接続する各 KVM ポートには、ポート番号(1、2、3 および 4)が割り当てられています。ポート番号は本製品のリアパネルに記載されています。コンピューターのポート ID はそのコンピューターが接続されている KVM ポート番号に基づいて決まります。

例えば、KVM ポート 1 に接続されているコンピューターには、1 番のポート ID が割り当てられています。コンピューターを切り替えると、下図に示すように、画面の左上にポート ID 番号が表示されるので、現在、操作できるコンピューターがどれであるかがわかるようになっています。



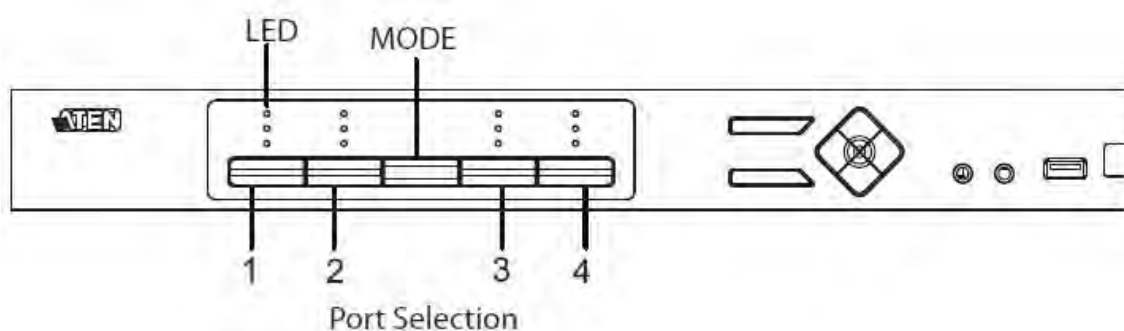
「ディスプレイモード」機能(p.36)を使用すると、一度に2台または3台、4台のコンピューター画面を表示することができ、各ウィンドウにはそのコンピューターのポート ID 番号が表示されます。ポート ID は OSD メニューで変更することができます(p.76「ポート ID の表示」参照)。

切替方法

コンピューターの切替は、「KVM」(キーボード、ビデオ、マウス)操作と「オーディオ」、「USB リンク」とそれぞれ、個別で切り替える他に、一括で切り替えることもできます。個別切替を行うと、例えば、ポート1に接続されたコンピューターのKVM操作をしながら、ポート2に接続されたコンピューターのオーディオを再生し、ポート3に接続されたコンピューターでUSBデバイスを使用することができます。

手動による切替

手動で切替を行うには、本製品のフロントパネルにある**ポート選択**ボタンと**モード**ボタンを使用してください。LEDに関する説明は、次ページに掲載しています。



- ◆ KVM 操作、オーディオ、および USB の全てを切り替えるには、切替先となる 1～4 のポート選択ボタンを押してください。
- ◆ KVM 操作のみを切り替えるには、モードボタンを 2 回押した後、1～4 のポート選択ボタンを押してください。
- ◆ オーディオのみを切り替えるには、モードボタンを 3 回押した後 1～4 のポート選択ボタンを押してください。
- ◆ USB のみを切り替えるには、モードボタンを 4 回押してから、1～4 のポート選択ボタンを押してください。
- ◆ ポート選択ボタンの 1 と 2 を同時に 2 秒間押すと、オートスキャンモード[※]が開始されます(詳細は p.47「オートスキャン」参照)。
- ◆ ポート選択ボタンの 3 と 4 を同時に 2 秒間押すと、KVM リセットを実行します。詳細は p.43「KVM リセット」を参照してください。


※ オートスキャンモードを中止するには、任意のポート選択ボタンを押してください。



ボタン操作方法		説明
モードボタン	ポート選択ボタン	
-	1～4 のボタンを押す	KVM 操作、オーディオ、USB の全てをポート選択ボタンを押したポート番号に切替。
2 回押す	1～4 のボタンを押す	KVM 操作のみをポート選択ボタンを押したポート番号に切替。
3 回押す	1～4 のボタンを押す	オーディオのみをポート選択ボタンを押したポート番号に切替。
4 回押す	1～4 のボタンを押す	USB のみをポート選択ボタンを押したポート番号に切替。
-	1と2を同時に2秒間押す	オートスキャンモードを開始(p.47 参照)。オートスキャンモードを中止するには、任意のポート選択ボタンを押してください。
-	3と4を同時に2秒間押す	KVM リセットを実行(p.43 参照)。

LED 表示

CM1164 のフロントパネルには「KVM」操作、「オーディオ」、「USB リンク」を表す 3 つの LED アイコンがそれぞれついています。この LED は下表のとおり、どのソースがどのコンピューターにアクセスしているかに応じてグリーンまたはオレンジに点灯します。



LED		意味
アイコン	KVM 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ USB ケーブルを接続していない、接続しているがソースデバイスの電源が OFF の場合、消灯します。 ◆ 該当するポートに接続しているコンピューターで KVM 操作ができる場合、「明るいオレンジ」に点灯します。 ◆ ファームウェアのアップグレードが実行中である場合、この LED 全てが「オレンジ」で点滅します。 ◆ キーボードバイパスが有効である場合、USB キーボード/マウスの該当するポート LED が点滅します。

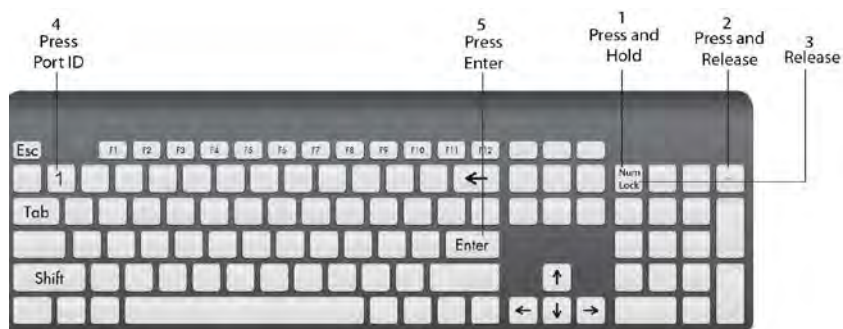
		<ul style="list-style-type: none"> ◆ コンピューターに電源が入っていますが KVM 操作が選択されていない場合、この LED は「暗いオレンジ」に点灯します。
オーディオ		<ul style="list-style-type: none"> ◆ 該当するポートに接続されたコンピューターでオーディオが選択されている場合、「グリーン」に点灯します。 ◆ デイジーチェーン接続されたコンピューターのオーディオが選択されている場合は、「グリーン」に点滅します。
USB リンク		<ul style="list-style-type: none"> ◆ 該当するポートに接続されたコンピューターで USB 周辺機器が操作できる場合、「グリーン」に点灯します。 ◆ デイジーチェーン操作の場合: 該当するポートに接続されたコンピューターから USB 周辺機器にアクセスできる場合、「グリーン」に点滅します。

ホットキーによる切替

キーボードからのホットキー入力を行ってコンピューターを切り替えることができます。

例えば、ポート番号 1 のコンピューターを切り替えるには、下記を入力してください。

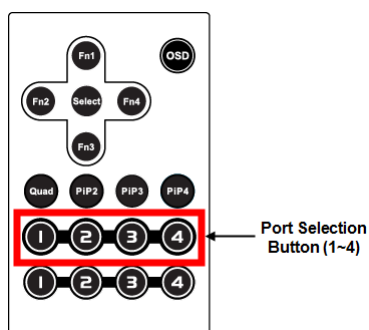
1. [Num Lock]キーを押したままにしてください。
2. [-](マイナス)キーを押して、指を離してください。
3. [Num Lock]キーから指を離してください。
4. [1]を押してください。
5. [Enter]キーを押してください。



他のコンピューターを切り替える場合は、手順 4 の [1]をそのコンピューターが接続されたポート ID (2、3、または 4)に置き換えてください。

リモコンによる切替

リモコンを使用してコンピューターを切り替えることができます。リモコンを CM1164 に向けて、アクセスしたいコンピューターのポート選択ボタンを押してください。

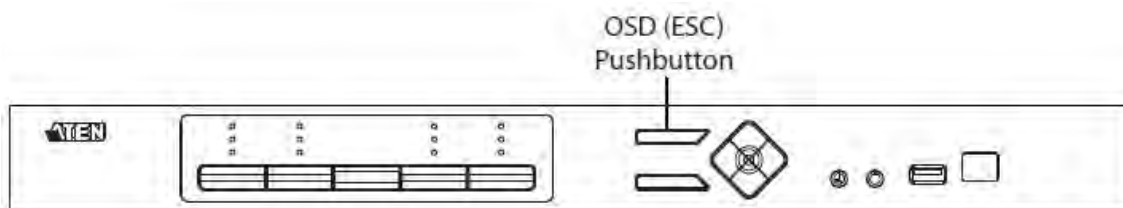


OSD による切替

OSD (オンスクリーンディスプレイ) メニューを使用してコンピューターを切り替えることができます。OSD は CM1164 のソフトウェアで、製品の設定を行うこともできます。マウスまたはキーボードの矢印キーを使用して OSD メニュー間を移動することができます。

OSD を使用してコンピューターを切り替えるには、下記を行ってください。

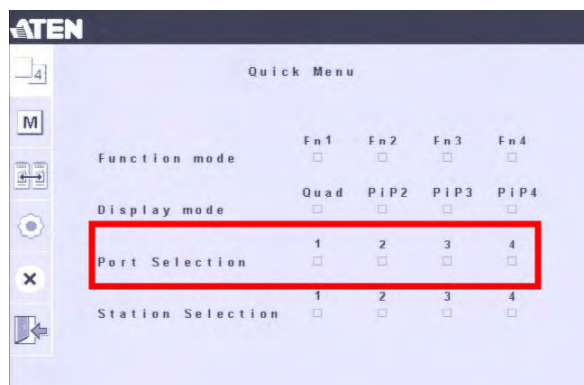
1. 本製品のフロントパネルにある OSD(ESC) ボタンを押してください。



2. OSD メニューが表示されたら、パスワードである「000000」を入力した後、「Login」(ログイン) をクリックしてください (p.58 参照)。



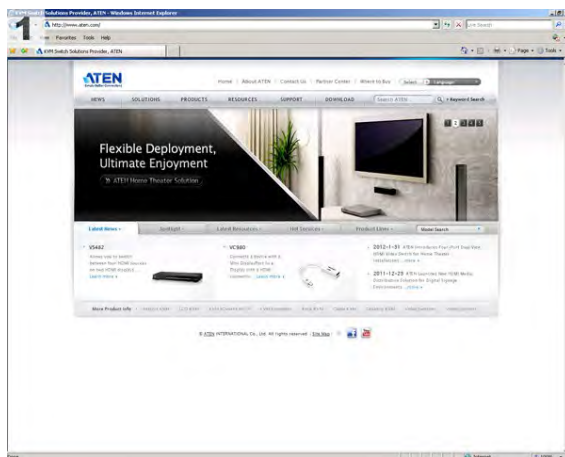
3. 「Quick Menu」(クイックメニュー) から「Port Selection」(ポート選択) の欄にあるコンピューターの番号 (1、2、3、または 4) にチェックを入れてください。



4. チェックを入れると、すぐにそのコンピューターに切り替わります。

ディスプレイモード

CM1164 にはユーザーが複数台のコンピューター/ビデオソースの画面を 1 度に表示できる様々なディスプレイモードをご用意しております。下図に示すように、各コンピューターのポート ID 番号が画面の左上に表示されます。

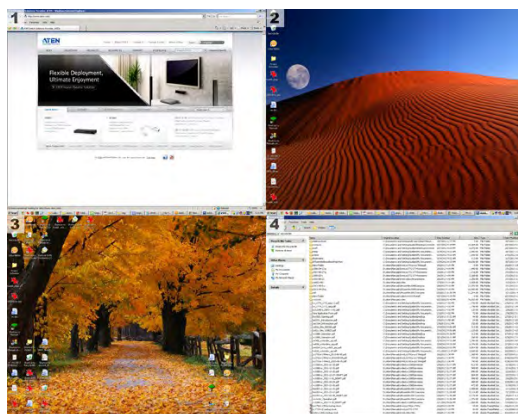



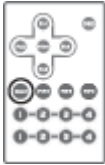

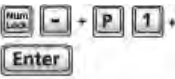

以下のセクションに、ディスプレイモードの切替方法を説明する一覧表を掲載しています。上図のような通常のフルスクリーン表示に戻すには、ポート選択ボタンを押してください。

ディスプレイモードウィンドウにコンピューター画面表示を合わせる際に問題が起こった場合は、p.41「ディスプレイモードの解像度」を参照ください。

クワッドビュー(4分割表示)

クワッドビュー(4分割表示)では、1つの画面に4台のコンピューター/ビデオソースを同じサイズのウィンドウで表示します。

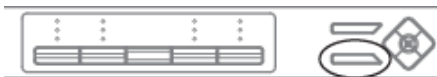
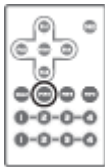





方法	操作方法	説明
フロントパネル	本体正面の Select (選択) を押してください。	 Push to cycle
IRリモコン	「 Quad 」(クワッド) ボタンを押してください。	
OSD パネル(ハードウェアカーソルモードを有効にする必要があります。p.72 参照。)	[Scroll Lock] を2度押ししてください。または、マウスを画面の上部中央に移動し、右クリックしてください。	
ホットキー	ホットキーの操作方法については、p.45「ホットキー設定モード」を参照してください。	
OSD メニュー	OSD を開き、「ディスプレイモード」で「 Quad 」(クワッド) にチェックを入れてください。	

ピクチャ・イン・ピクチャ - デュアル

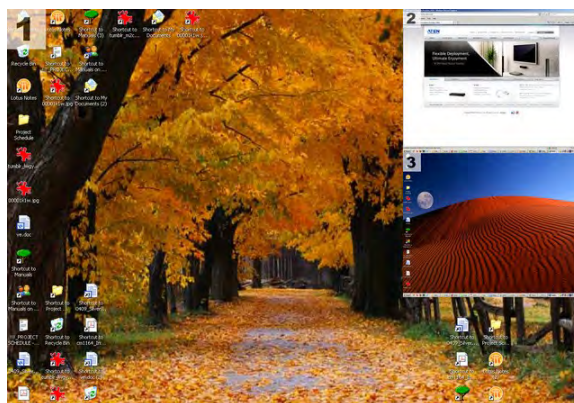
ピクチャ・イン・ピクチャ(PiP)モードのデュアル表示では、2 台のコンピューターのうち 1 台のコンピューターの画像が画面全体に表示され、他方のコンピューターの画像が画面の右側に表示されます。

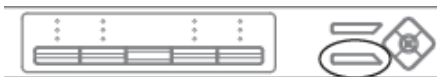
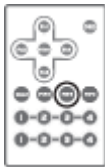





方法	操作方法	説明
フロントパネル	ディスプレイモードを順に切り替えるには、 Select (選択) を押してください。	
IR リモコン	「 PIP2 」ボタンを押してください。	
OSD パネル(ハードウェアカーソルモードを有効にする必要があります。p.72 参照。)	[Scroll Lock] を 2 度 押ししてください。または、マウスを画面の上部中央に移動してください。	
ホットキー	ホットキーの操作方法については、p.45「ホットキー設定モード」を参照してください。	
OSD メニュー	OSD を開き、「ディスプレイモード」で「 PIP2 」にチェックを入れてください。	

ピクチャ・イン・ピクチャ - トリプル

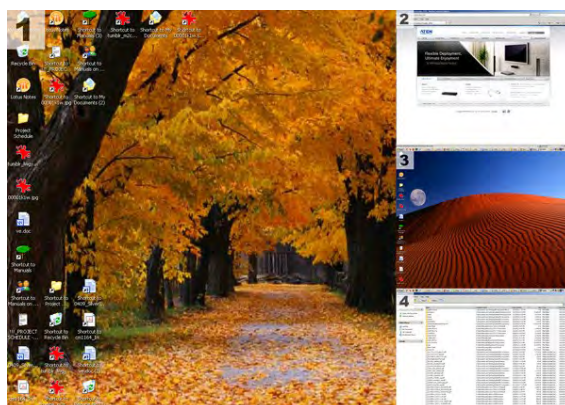
3 台のコンピューターのうち 1 台のコンピューターの画像が画面全体に表示され、残り 2 台のコンピューター画像が画面の右側に表示されます。

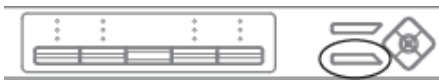
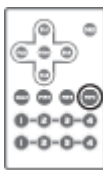





方法	操作方法	説明
フロントパネル	ディスプレイモードを順に切り替えるには、 Select (選択) を押してください。	
IR リモコン	「 PIP3 」ボタンを押してください。	
OSD パネル (ハードウェアカーソルモードを有効にする必要があります。p.72 参照。)	[Scroll Lock] を 2 度押ししてください。または、マウスを画面の上部中央に移動してください。	
ホットキー	ホットキーの操作方法については、p.45「ホットキー設定モード」を参照してください。	
OSD メニュー	OSD を開き、「ディスプレイモード」で「 PIP3 」にチェックを入れてください。	

ピクチャ・イン・ピクチャ - クワッド

4台のコンピューターのうち1台のコンピューターの画像が画面全体に表示され、残り3台のコンピューター画像が画面の右側に表示されます。



方法	操作方法	説明
フロントパネル	ディスプレイモードを順に切り替えるには、 Select (選択) を押してください。	
IR リモコン	「 PIP4 」ボタンを押してください。	
OSD パネル (ハードウェアカーソルモードを有効にする必要があります。p.72 参照。)	[Scroll Lock] を 2 度 押してください。または、マウスを画面の上部中央に移動してください。	
ホットキー	ホットキーの操作方法については、p.45「ホットキー設定モード」を参照してください。	
OSD メニュー	OSD を開き、「ディスプレイモード」で「 PIP4 」にチェックを入れてください。	

ディスプレイモードの解像度

解像度の調整

ディスプレイモードすべてにおいて、ソースデバイスの解像度がチャンネルで設定された解像度に合わない場合、下図のようにその部分は黒く表示されます。



上図の例では、チャンネル A とチャンネル D に接続されたビデオソースデバイスの解像度がディスプレイモードで設定された解像度より低いことを表します。この場合、OSD を使用してご使用の環境に最適な解像度を設定することができます (p.68「4 画面表示の解像度」参照)。

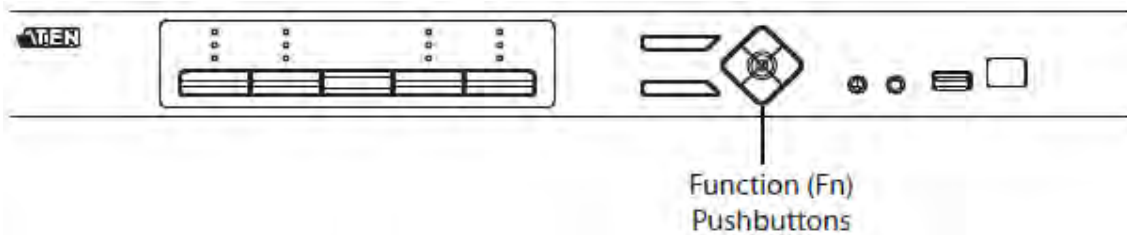
ピクチャ・イン・ピクチャの調整



チャンネル A の出力がフルで見られるようにするため、チャンネル B、C、D のチャンネルが画面の右側にかぶらないようにするオプションもありますが、この場合、チャンネル全てが画面に合うようにするため、より低い解像度で表示されます。詳細は p.65「ピクチャ・イン・ピクチャ(デュアル/トリプル/クワッド)」を参照してください。

Fn プッシュボタン

現在のディスプレイモードや KVM/オーディオ/USB 操作設定をフロントパネルのファンクション (Fn) キーに保存することができます (p.84 参照)。4 種類までの設定内容をそれぞれ Fn プッシュボタンに割り当てると、このボタンを押すだけで様々な設定を簡単に切り替えることができるため、手動でその都度設定を行う時間と手間を省くことができます。Fn プッシュボタンに保存した設定値を切り替えるには、下表を参照してください。



方法	操作方法	説明
フロントパネルプッシュボタン	「Fn1」、「Fn2」、「Fn3」、「Fn4」プッシュボタンを押してください。	
IR リモコン	「Fn1」、「Fn2」、「Fn3」、「Fn4」プッシュボタンを押してください。	
OSD パネル (ハードウェアカーソルモードを有効にする必要があります。p.72 参照。)	[Scroll Lock] を 2 度押ししてください。または、マウスを画面の上部中央に移動してからファンクションボタンを選択してください。	
ホットキー	ホットキーの操作方法については、p.45「ホットキー設定モード」を参照してください。	
OSD メニュー	OSD を開き、「ファンクションモード」で「Fn1」、「Fn2」、「Fn3」、または「Fn4」にチェックを入れてください。	

電源 OFF と再起動

本製品の電源を OFF にする必要がある場合は、再起動を行う前に以下の作業を行ってください。

1. 本製品に接続されているすべてのコンピューターをシャットダウンしてください。
2. 本製品から電源ケーブルを外してください。
3. シャットダウンが終了したら 10 秒ほど待機し、本製品の電源ケーブルを元のように接続してください。
4. 本製品に電源が入ったら、コンピューターの電源を入れてください。

USB リセット

コンソールに接続したキーボードやマウスが OSD では操作できるものの、サーバー等 PC で認識や操作ができなくなった場合は、

- ◆ ホットキーセッティングモード (p.45 参照) を起動して、[F5] キーを押す (p.49 参照)。
- ◆ OSD の USB リセット (p.83 参照)

のいずれかをお試してください。

デフォルト値のリストア

本製品を工場出荷時のデフォルト値に完全にリセットするには、OSD メニューを使用してください。詳細は p.86「デフォルト値へのリストア」を参照してください。

第4章

キーボードによるポート操作

CM1164 は、KVM スイッチの操作や設定をキーボードから行うことができる、使いやすいホットキー機能を提供しています。

OSD の起動

キーボードを使用して OSD を起動するには、[Scroll Lock]キーを2度押ししてください。

[Scroll Lock] [Scroll Lock]

OSD を終了するには、[Esc]キーまたはスペースキーを押してください。

- ◆ [Esc]キーを押すと、前の画面に戻ります。
- ◆ スペースキーを押すと、ただちに OSD を終了します。

注意: OSD を起動するホットキーは[Ctrl]キーに変更することができます。詳細は p.73「OSD ホットキー」を参照してください。

ハードウェアカーソルモード有効時での OSD の起動

ハードウェアカーソルモードが有効である場合、下記の追加ホットキーが適用されます(詳細は p.72「ハードウェアカーソルモード」参照)。

OSD を起動するには、

1. [Scroll Lock] [Scroll Lock]を入力後、マウスを右クリックしてください。または、[Scroll Lock] [Scroll Lock] [Scroll Lock]を入力してください。
2. OSD を終了し、通常の PC 操作に戻るには、[Esc]をクリックしてください。OSD を終了するには [Esc]またはスペースキーを押してください。

注意: ハードウェアカーソルモードが無効である場合、[Scroll Lock]キーを2度押しすると OSD が起動します。

ホットキーセッティングモード

ホットキーセッティングモードは、ホットキーを使用してCM1164を設定する際に使用します。ホットキー操作すべては、このホットキーセッティングモードを起動することから始め、その後続けてホットキーを入力します。

ホットキーセッティングモードの起動

ホットキーセッティングモードを起動するには下記の操作を行ってください。

1. [Num Lock]キーを押したままにしてください。
2. [-]キー(マイナスキー)を押して指を離してください。
3. [Num Lock]キーから指を離してください。

注意: ホットキーセッティングモードは別のキー操作でも起動することができます。詳細は p.73「ホットキー選択モード」を参照してください。

ホットキーセッティングモードが有効になると、キーボードの Caps Lock と Scroll Lock の各 LED が交互に点滅します。ホットキーセッティングモードを終了すると、LED は通常の状態に戻ります。

また、ホットキーセッティングモード中は、通常のキー入力やマウスの操作が無効となります。ホットキーセッティングモードで有効なキーボード入力、マウスクリックのみが操作可能となります。

ホットキーセッティングモードは、コマンドを入力後に自動的に解除されるものと、手動で解除するものがあります。手動でホットキーセッティングモードを解除する場合は、[Esc]キーかスペースキーを入力してください。

下表はCM1164 バーで実行されるホットキーとその機能を表しています。まずホットキーセッティングモードを起動してから、キーの組み合わせを入力してください。

ホットキー	機能
[A]	オートスキャンを開始します。詳細は p.47「オートスキャン」を参照してください。
[Enter]	次のコンピューター/ソースデバイスに切り替えます(1→2、2→3、3→4、4→1 の順)。

(表は次ページに続きます。)

ホットキー	機能
[Port ID] [Enter]	指定したポートID(1、2、3、または4)に接続されたコンピューターに切り替えます。
[Port ID] [K] [Enter]	KVM 操作のみ を現在のポートから指定したポート ID に接続されたコンピューターへと切り替えます。USB ハブとオーディオは現在のポートのままです。
[Port ID] [U] [Enter]	USB ハブのみ を現在のポートから指定したポートIDに接続されたコンピューター/ソースデバイスへと切り替えます。KVM 操作とオーディオ操作は現在のポートのままです。
[Port ID] [S] [Enter]	オーディオ操作のみ を現在のポートから指定したポートIDに接続されたコンピューター/ソースデバイスへと切り替えます。KVM 操作と USB ハブは現在のポートのままです。
[Station ID] [Port ID] [K] [Enter]	CM1164 がダイジーチェーン接続されている場合、CM1164 のステーション ID とコンピューター/ソースデバイスが接続されたポート ID を指定すると、そのポートに KVM 操作のみ を切り替えます (p.27「ダイジーチェーン接続」参照)。
[D]	ブート時のディスプレイ問題を回避し、解像度を最適化するビデオダイナシンク機能を実行します。詳細は p.49「ビデオダイナシンク」を参照してください。
[F4]	KVM の現在の設定を一覧表示します。詳細は p.48「現在の KVM 設定の一覧表示」を参照してください。
[F5]	USB デバイスとの接続に問題が発生した場合は、USB リセットを行うと解決する場合があります。詳細は p.49「USB リセット」を参照してください。

オートスキャン

オートスキャン機能とは、一定の時間間隔で自動的にポートを切り替えて表示する機能です。この機能によって、手動でポートの切替操作をせずに、KVM スイッチに接続された全てのコンピューターの状態を監視することができます。コンピューターのビデオ出力画面はポートからポートへと切り替わりますが、キーボードとマウスの操作及び USB 周辺機器は切り替わらず、オートスキャンを開始したポートに留まったままの状態となっています。詳細は下表をご参照ください。

ホットキー	機能
[A] [Enter]	オートスキャンモードを有効にします。ポートの選択が 5 秒間隔 で切り替わります。デフォルト設定はこの 5 秒間隔となっています。
[A] [n] [Enter]	ポートの選択が n 秒間隔 で切り替わります。 注意: n は CM1164 が次のポートへと切り替わるまでの秒数を表しています。ホットキーを入力する際には、1~99 までの数字を n の部分に入力してください。

オートスキャンモードが有効になっている間は、通常のキーボード/マウス操作はできません。オートスキャンモードに対応したキー入力とマウスクリックのみが使用できます。通常のコンソール操作を行うには、[Esc]キーを押してオートスキャンモードを中止してください。

オートスキャン - ディスプレイモード

オートスキャンモードは、フルスクリーン、ピクチャ・イン・ピクチャ (PiP) のデュアルおよびトリプル表示において動作します。PiP トリプルモードでオートスキャンを起動するには、OSD メニューのチャンネルの**スキャン**を有効にしてください (p.67「ディスプレイモードの設定」参照)。PiP デュアルまたはトリプル表示でオートスキャンを開始すると、サブ画面 (チャンネル) のうちの 하나가、2 または 3 台のコンピューターのオートスキャンを表示します。

クワッドビュー (4 分割表示) や **PiP クワッド表示** の場合、画面に全てのコンピューターが表示されているため、オートスキャンモードはご使用いただけません (p.36「ディスプレイモード」参照)。

ディスプレイモード

ディスプレイモードホットキーを使用すると、ディスプレイモードを切り替えることができます。ディスプレイモードに関する詳細は、p.36「ディスプレイモード」を参照してください。

下表は各ホットキーに関する詳細です。まずホットキーセッティングモード (p.45) を起動してから、下記のホットキーを入力してください。

ホットキー	機能
[P] [1] [Enter]	クワッドビュー (4 分割表示) モードを起動します (p.37「クワッドビュー (4 分割表示)」参照)。
[P] [2] [Enter]	ピクチャ・イン・ピクチャのデュアル表示を起動します (p.38「ピクチャ・イン・ピクチャ - デュアル」参照)。
[P] [3] [Enter]	ピクチャ・イン・ピクチャのトリプル表示を起動します (p.39「ピクチャ・イン・ピクチャ - トリプル」参照)。
[P] [4] [Enter]	ピクチャ・イン・ピクチャのクワッド表示を起動します (p.40「ピクチャ・イン・ピクチャ - クワッド」参照)。

分割表示をせずに、コンピューター 1 台のみを画面に表示させるには、ホットキーセッティングモードを起動してから、ホットキー [Port ID] [Enter] ポート番号と入力してください。

F_n キー

F_n ホットキーを使用して、ファンクションキーの設定内容を実行することができます。F_n キーに関する詳細は、p.42「F_n プッシュボタン」を参照してください。

下表は各ホットキーに関する詳細です。まずホットキーセッティングモード (p.45) を起動してから、下記のホットキーを入力してください。

ホットキー	機能
[F] [1] [Enter]	F _n 1 キー設定を実行します。 (p.84「F _n キー」参照)。
[F] [2] [Enter]	F _n 2 キー設定を実行します。 (p.84「F _n キー」参照)。
[F] [3] [Enter]	F _n 3 キー設定を実行します。 (p.84「F _n キー」参照)。
[F] [4] [Enter]	F _n 4 キー設定を実行します。 (p.84「F _n キー」参照)。

現在の KVM 設定の一覧表示

現在の切替設定一覧を確認するには、下記の手順に従ってください。

1. テキストエディターかワープロソフトを開いて、ページ画面にカーソルを置いてください。
2. ホットキーセッティングモードを起動してください(p.45 参照)。
3. [F4]キーを押して指を離し、設定を表示してください。

USB リセット

USB が認識されなくなり、リセットが必要になった場合は、下記の手順に従ってください。

1. ホットキーセッティングモードを起動してください(p.45 参照)。
2. [F5]キーを押して指を離してください。

ビデオダイナシク

ビデオダイナシクは CM1164 本体にある EDID を非選択のポートのビデオソースに送信する機能で、電源を ON にした時にモニターが接続されていない、解像度が合わない、映像が表示されないなどの問題を回避することができる ATEN の独自機能です。ビデオダイナシク機能を起動するには、下記の手順に従ってください。

1. ホットキーセッティングモードを起動してください(p.45 参照)。
2. [D]キーを押してください。

注意： モニターが外されて、再度接続された場合、CM1164 はもう一度ビデオダイナシク機能を実行します。

ポート切替

コンピューターを切り替えるには、下記の手順に従ってください。

1. ホットキーセッティングモードを起動してください(p.45)。
2. ポート番号[1]、[2]、[3]または[4]を入力してください。
3. [Enter]を入力してください。

工場出荷時におけるデフォルトホットキーおよび設定

設定	ホットキー	デフォルト
ポート切替キーをデフォルトと代替 ([Ctrl][Ctrl]で交互に切替	[T]	[Scroll Lock] [Scroll Lock]
ホットキーセッティングモードの起動キーをデ フォルトと代替([Ctrl][F12])で交互に切替	[H]	[Num Lock]+[-]
テキストエディターのペースト機能を使用して、 現在の切替設定を一覧表示	[F4]	-
全ての USB デバイスでリセットを実行	[F5]	-
オートスキャンのインターバル	[Scroll Lock] [Scroll Lock] [A] [Enter]	5 秒間
キーボード操作プラットフォーム	[F10]	PC 互換
ビデオダイナシク機能を起動	[D]	有効
マウスエミュレーション	[M]	有効
キーボードエミュレーション	[N]	有効
マウスホイールによる切替	[W]	無効
ビープ音	[B]	有効
キーボード言語レイアウト	[F6] [nn] [Enter] 注意:nn は言語番号を表 します(日本語:15、英語: 33、フランス語:08)。	英語

第5章

チャンネルエディター

概要

本章では、「チャンネルエディターモード」について説明します。この機能を使用すると、マウスとオンスクリーンコントロールパネルを使用して、ウィンドウやその他の機能の変更などを簡単に行うことができます。

チャンネルエディターの起動

チャンネルエディター機能を起動すると、マウスとオンスクリーンコントロールパネルを使用して、コンピューターの表示ウィンドウを変更することができます。変更を行う前に必ずこのチャンネルエディター機能を起動してください。

また、チャンネルエディターモードを起動するには、必ずハードウェアカーソルモードを有効にしてください(p.72「ハードウェアカーソルモード」参照)。チャンネルエディターを起動するには、下記のいずれかを行ってください。

- ◆ キーボードを使用する場合:[Scroll Lock]キーを2度押ししてください。
- ◆ マウスを使用する場合:マウスホイールを3秒以上長押ししてください。また、「ハードウェアカーソルモード」にある「チャンネルホイールモード」を有効にしておいてください。(p.82 参照)。

注意:

- ◆ 「チャンネルホイールモード」は「ハードウェアカーソルモード」と「マウスエミュレーション」の両方を有効にしないとご使用いただけません。
- ◆ 本機能は「マウスエミュレーション」の「マウス切替機能」とは異なります。

チャンネルエディターモードが起動すると、各ウィンドウにポート番号が表示され、セカンドマウスカーソルが表示されます。



チャンネルエディターのマウス操作

チャンネルエディターを起動すると、新たにカーソルが表示され、マウスを使用した通常の PC 操作はできなくなります。代わりに、チャンネルエディター機能として、マウスからコンピューターの切替、ウィンドウの移動や交換、サイズ変更と OSD メニューを開くといった操作を行うことができます。

下表はチャンネルエディター機能を使用した際のマウス操作について表しています。

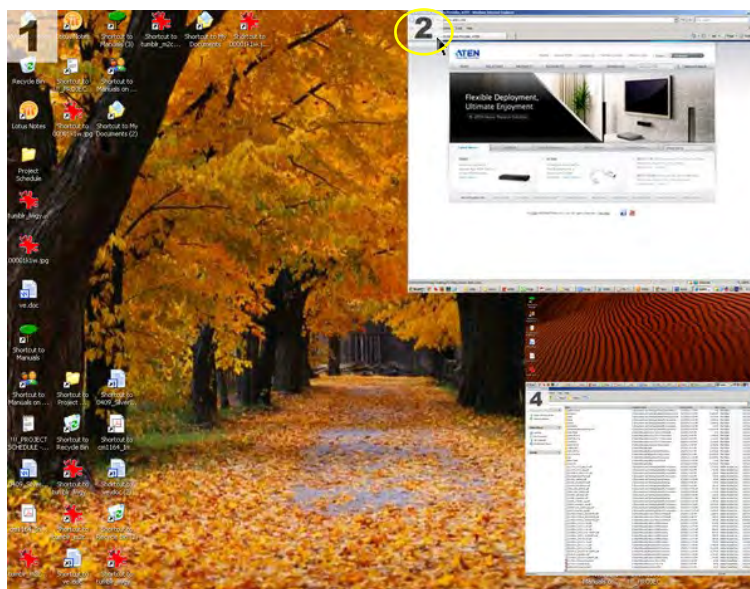
操作	操作手順	説明
ポート切替	ウィンドウをワンクリックしてください。	KVM 操作をクリックしたコンピューターに切り替えます。
	ウィンドウをダブルクリックしてください。	KVM 操作をクリックしたコンピューターに切り替えて、フル画面表示にします。
OSD メニュー	画面を右クリックするか、[Scroll Lock]を 3 回押してください。	OSD メニューを開きます。
ウィンドウの移動	ポート ID をクリックしたままウィンドウをドラッグしてください。	画面の任意の場所にウィンドウを移動させます。
ウィンドウのサイズ変更	ポート ID をダブルクリックしてください。	ダブルクリックする毎にウィンドウサイズを変更します。3 種類あるサイズから選択してください。
フルスクリーン参照のみ	ポート ID を 3 回クリックしてください。	クリックしたポート ID のコンピューターの画面をフルスクリーン表示にし、かつ参照のみ可能となります。元の表示に戻すには、マウスをワンクリックしてください。
ウィンドウの交換	ポート ID をクリックしてから、交換先となるウィンドウのポート ID をクリックしてください。	ウィンドウ 1 のコンピューターとウィンドウ 2 のコンピューターを入れ替えます。

- 注意:**
- 一部の機能(ウィンドウの移動やウィンドウのサイズ変更等)はピクチャ・イン・ピクチャモードでのみご使用可能です。
 - ウィンドウエディターが有効になると、マウスカーソルの色がブラックまたはホワイトに変更されます。これを変更するには、p.72「ハードウェアカーソルモード」の「**カーソルタイプ**」を参照してください。

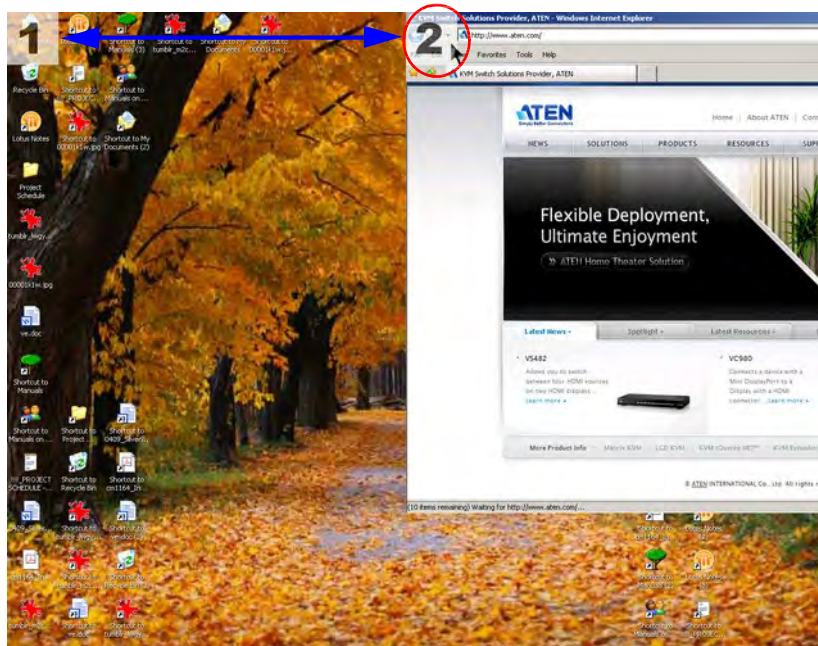
- ◆ ウィンドウの移動:ポート ID をクリックしたまま、そのウィンドウを画面上の新しい位置まで移動させてください。



- ◆ ウィンドウのサイズ変更:ウィンドウサイズを変更するには、ポート ID をダブルクリックしてください。



- ◆ ウィンドウの交換: ウィンドウのポート ID をクリックしてから、交換先となるポート ID をクリックしてください。この 2 台のコンピューターのウィンドウが入れ替わります。



チャンネルエディターコントロールパネル

チャンネルエディター機能は、オンスクリーンコントロールパネルを使用して、ディスプレイモードの変更や Fn キーの使用および OSD メニューの起動を簡単に行うことができます。このコントロールパネルを使用するには、[Scroll Lock]キーを2度押ししてチャンネルエディターを起動してから、マウスを画面の上中央に移動させてください。すると、下図のように画面の上部にコントロールパネルが表示されます。



コントロールパネルには、ファンクション(Fn)キーボタン、ディスプレイモードボタンおよび OSD メニューを開くボタンがあります。


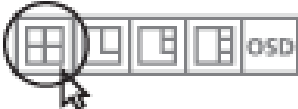

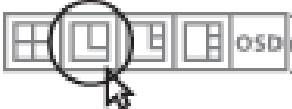

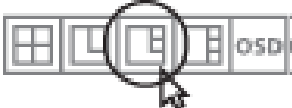

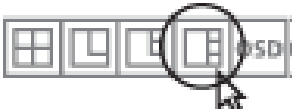


オプションを選択するには、コントロールパネルのボタンをクリックしてください。

- ◆ **Fn1～Fn4** - ディスプレイモードおよび KVM 設定を実行するにはこのファンクションボタンをクリックしてください。Fn キーに設定を保存する方法は、p.84「Fn キー」を参照してください。
- ◆ **ディスプレイモード** - ディスプレイモード(次ページの表を参照)を切り替えるには、この 4 つのボタンを使用してください。ディスプレイモードに関する詳細は、p.36「ディスプレイモード」を参照してください。
- ◆ **OSD** - OSD メニューを開くには、OSD ボタンをクリックしてください。

ディスプレイモード

ディスプレイモードを選択するには、コントロールパネルを使用してください。

ディスプレイモード	ボタン
<p>Quad-View</p>  <p>クワッドビュー (4 分割表示)</p>	 <p>このモードでは、4 台のコンピューターの画面を同サイズのウィンドウで表示します。</p>
<p>PIP Dual</p>  <p>ピクチャ・イン・ピクチャ (デュアル)</p>	 <p>このモードでは、2 台のコンピューターのうち 1 台のコンピューターの画像が画面全体に表示され、他方のコンピューターの画像が画面の右側に表示されます。</p>
<p>PIP Triple</p>  <p>ピクチャ・イン・ピクチャ (トリプル)</p>	 <p>3 台のコンピューターのうち 1 台のコンピューターの画像が画面全体に表示され、残り 2 台のコンピューター画像が画面の右側に表示されます。</p>
<p>PIP Quad</p>  <p>ピクチャ・イン・ピクチャ (クワッド)</p>	 <p>4 台のコンピューターのうち 1 台のコンピューターの画像が画面全体に表示され、残り 3 台のコンピューター画像が画面の右側に表示されます。</p>

第6章 OSD 操作

概要

オンスクリーンディスプレイ(OSD)は本製品の設定やコンピューターの切替を行うメニュー形式の方法です。OSD を表示するには下記の 3 通りの方法があります。

- ◆ OSD フロントパネルボタンを押してください。
- ◆ IR リモコンの OSD ボタンを押してください。
- ◆ コンソールキーボードの[Scroll Lock]キーを 2 度押ししてください。

OSD には 4 段階(アドミニストレーター/パワーユーザー/ユーザー/ゲスト)のユーザーレベルが提供されています。OSD メイン画面が表示される前に、ログインダイアログボックスが表示され、パスワードの入力が要求されます。

初回ログイン時は、**ゲスト**アカウントのみ有効となります。ゲストアカウントのパスワードである「000000」を入力して、OSD メイン画面にアクセスしてください。



ゲストアカウントには、フルアクセス権があり、初回セットアップの際に使用します。

アドミニストレーター、パワーユーザーおよびユーザーアカウントを有効にするには、「Settings」(設定)→「System」(システム)→「Security」(セキュリティ)の順にメニューを選択し、このセキュリティの「**Enable**」(有効にする)にチェックを入れてください(p.78「セキュリティ」参照)。セキュリティが有効となっている場合、ゲストアカウントは無効となり、使用できなくなります。この「**Enable**」(有効にする)にチェックが入っていない場合は、ゲストアカウントのみがログイン可能となります。

各アカウントのデフォルトのパスワードは下記の通りです。

- ◆ アドミニストレーター - 111111
- ◆ パワーユーザー - 222222
- ◆ ユーザー - 333333
- ◆ ゲスト - 000000



ゲストアカウント以外のパスワードは、セキュリティ画面(p.78 参照)で変更することができます。セキュリティが有効となっている場合、CM1164 の安全を確保するために、ゲストアカウントは自動的に無効となります。

OSD 操作およびメニュー




OSD メニューを切り替えて、サブメニューに遷移し、オプションを変更/修正して、選択項目を確定させるという一連の操作を行うには、下記の 3 通りの方法があります。

- ◆ **フロントパネルのボタン** - CM1164 のフロントパネルにあるファンクションボタン(Fn1～Fn4)、**選択ボタン**および **OSD ボタン**を使用してください。Fn1～Fn4 ボタンはそれぞれ上/下/左/右方向に対応しています。オプションを入力するには**選択**ボタンを使用し、メニューを終了するには、**OSD ボタン**を使用してください。詳細は p.18「フロントパネル」を参照してください。
- ◆ **IR リモコン** - p.21「IR リモコン」を参照してください。
- ◆ **キーボード** - メニュー間を移動するには、**矢印キー**を使用してください。オプションを選択し、保存するには[Enter]キーを使用し、終了するには、[Esc]キーを使用してください。
- ◆ **マウス** - メニュー画面を開くには、そこにカーソルを合わせてから**クリック**してください。オプションの変更、保存、またはサブメニュー画面に遷移するには、マウスを**ダブルクリック**してください。







OSD メニューのオプションは下表の通りです。太字は CM1164 のデフォルト設定であることを表します。

メニュー画面	サブメニュー画面	
ログイン画面		
ポート選択 	ファンクションモード、ディスプレイモード、ポートおよびステーションの選択・切替を設定します。	p.63「ポートの選択」参照。
モード 	クワッドビュー(4 分割表示)	p.65「クワッドビュー(4 分割表示)」参照。
	ピクチャ・イン・ピクチャ(デュアル)	p.65「ピクチャ・イン・ピクチャ(デュアル/トリプル/クワッド)」参照。
	ピクチャ・イン・ピクチャ(トリプル)	
	ピクチャ・イン・ピクチャ(クワッド)	
	チャンネルの無効	p.67「チャンネルの無効」参照。
	クワッドビュー(4 分割表示)解像度	p.68「4 分割表示の解像度」参照。
	スタートアップディスプレイモード	p.69「スタートアップディスプレイモード」参照。

(表は次ページに続きます。)

メニュー画面	サブメニュー画面			
DCC 	デイジーチェーン接続時に、キーボード・マウス操作を行うステーションとポート番号を選択します。 p.70「DCC」参照。			
設定  (項目は下表に続きます。)	システム 	ハードウェアカーソルモード	有効/無効 チャンネルホイールモード ハードウェアカーソルタイプ	
		OSD ホットキー	[Scroll Lock] / [Ctrl]	
		ホットキー選択モード	[Num Lock]+[-] / [Ctrl]+[F12]	
		ビデオダイナシンク	有効/リロード/デフォルト KVM EDID	
		ビープ音	有効/無効	
		ポート ID の表示	ポート/表示時間	
		OSD 言語	英語/ドイツ語/フランス語/日本語/中国語(繁体字)	
		キーボード言語	フランス語/英語/日本語	
		オートスキャン	スキャンインターバル/スキャンモード	
		セキュリティ	有効	
			ユーザーパスワード	333333
			パワーユーザーパスワード	222222
			アドミニストレーターパスワード	111111
			ログインタイムアウト	1~99分 (デフォルト:2分)
RS232 リモートログイン	有効/無効			
KVM ステータス	読取専用。現在の設定内容が確認できます。			
DCC コントロール	有効/クローン			

(表は次ページに続きます。)

メニュー画面	サブメニュー画面		
設定  (前頁の続き。)	コンピューター 	キーボードエミュレーション	有効/無効
		マウスエミュレーション	有効/マウスによる切替機能
		電源探知機能	有効/無効
		OS 設定	自動検知/MAC/Sun/SPC
		USB リセット	有効/無効
	設定 	Fn キー	編集
			選択
		デフォルト値へのリストア	有効/無効
		ファームウェアアップグレード	有効/無効
	ヘルプ 	ホットキーリスト	読取専用
		Info	読取専用
	閉じる 	これをクリックすると、現在の画面を閉じます。	
OSD の終了 	これをクリックすると、OSD メニューからログアウトします。		

ポートの選択

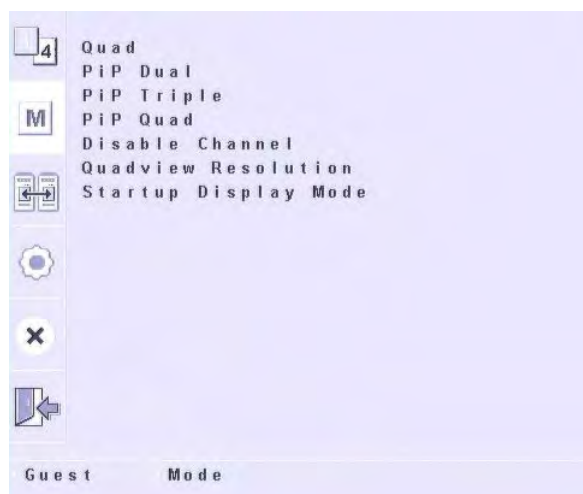
クイックメニューを使用して、ファンクションやモードを選択できます。選択したオプションのボックスにチェックを入れると、すぐにそのオプションを実行します。



- ◆ **Function mode** (ファンクションモード) - ファンクションモードはカスタマイズした画面構成の設定を呼び出す機能です。実行するファンクション (Fn) ボタンを選択してください。設定方法は p.84「Fn」キーを参照してください。
- ◆ **Display mode** (ディスプレイモード) - 実行するディスプレイモードを選択してください。
- ◆ **Port Selection** (ポート選択) - 選択したポートに接続されているコンピューターにKVM操作、オーディオおよびUSB デバイスが切り替わります。
- ◆ **Station Selection** (ステーション選択) - CM1164 をデイジーチェーン接続している際に、そのステーションを選択します。ステーションを選択してから、(ビデオを除く) キーボード・マウス操作を行いたいコンピューターが接続されているポートを「Port Selection」から選択してください。詳細は、p.27「デイジーチェーン接続」を参照してください。

モードの選択

ディスプレイモード、チャンネル、クワッドビュー解像度やスタートアップディスプレイモードを選択するには、「モード」アイコンをクリックしてください。ディスプレイモードに関する詳細は p.36「ディスプレイモード」を、チャンネルに関する詳細は p.92「チャンネル ID」を参照してください。



ディスプレイモード

どのコンピューターをどのチャンネルウィンドウに表示させるかを設定するには、ディスプレイモードを選択してください。チャンネルに関する詳細は p.92「チャンネル ID」を参照してください。

注意: ディスプレイモードは1台の CM1164 の 4 つの映像入力の表示をするモードです。デイジーチェーン接続時に、他の CM1164 の映像入力と組み合わせて表示することはできません。

クワッドビュー(4分割表示)

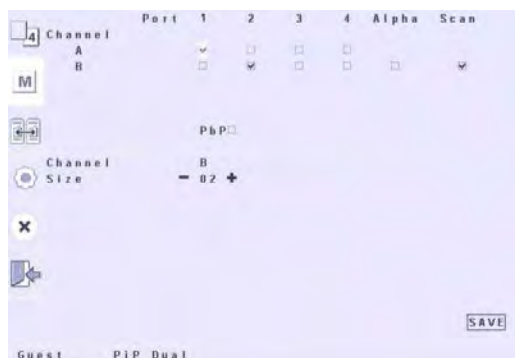
クワッドビュー(4分割表示)では、一度に4台までのコンピューター/ビデオソースを画面に表示することができます。コンピューターが接続しているポート番号に対して、それを表示させるチャンネルウィンドウのA、B、C、またはDにチェックを入れてから、「SAVE」(保存)をクリックしてください。



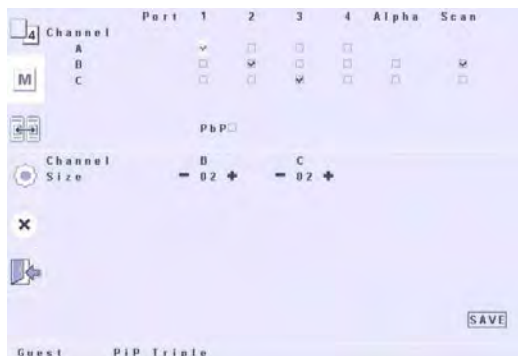
ピクチャ・イン・ピクチャ(デュアル/トリプル/クワッド)

「ピクチャ・イン・ピクチャ(PiP)モード」では、2台、3台または4台のコンピューターを一度にそれぞれ2画面(デュアル)、3画面(トリプル)または4画面(クワッド)と個別のウィンドウで表示させることができます(p.36「ディスプレイモード」参照)。

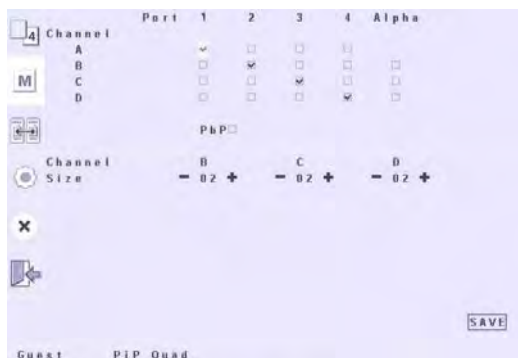
ピクチャ・イン・ピクチャ デュアルモード



ピクチャ・イン・ピクチャ トリプルモード



ピクチャ・イン・ピクチャ クワッドモード



ディスプレイモードの設定

ピクチャ・イン・ピクチャ(デュアル/トリプル/クワッド)画面を設定するには、下記の手順に従ってください。

1. コンピューターが接続しているポート番号に対して、それを表示させるチャンネルウィンドウ(A、B、C、またはD)にチェックを入れてください。
2. **アルファ** - このオプションをクリックすると、ポートのオンスクリーンディスプレイの透明度を変更し、その画面の下が透けて見えるように調節することができます。尚、透明度は固定となります。

3. **PbP** - ピクチャ・イン・ピクチャモードは、チャンネル A は画面全体を表示し、残りのチャンネルは画面の右側手前に表示され、チャンネル A の画面を一部遮る形となります。

チャンネル A の画面を他のチャンネルの画面に遮られることなく、フルスクリーンで見られるようにするには、「PbP(ピクチャ・バイ・ピクチャ)」にチェックを入れてください。これは、チャンネル全てが画面に合うように最小解像度となりますが、チャンネル A をフル画面表示することができます。

ピクチャ・イン・ピクチャのデュアル・トリプルモードでは、オートキャンを行うチャンネルを選択するには **Scan**(スキャン)チェックボックスを使用します。オートスキャンを起動すると、選択したチャンネルは常時表示していない映像入力を自動的に切り替えて表示します。詳細は、p.47「オートスキャン - ディスプレイモード」を参照してください。

4. **チャンネルのサイズ** - チャンネルの表示サイズを選択するには、マイナス「-」またはプラス「+」マークを使用してください。1~3(最大サイズ)までの値を選択することができます。

チャンネルの無効

画面に表示させたくないポート番号にチェックを入れてください。するとそのポート番号のチャンネルは非表示となります。チャンネルに関する詳細は、p.92「チャンネル ID」を参照してください。



4 分割表示の解像度

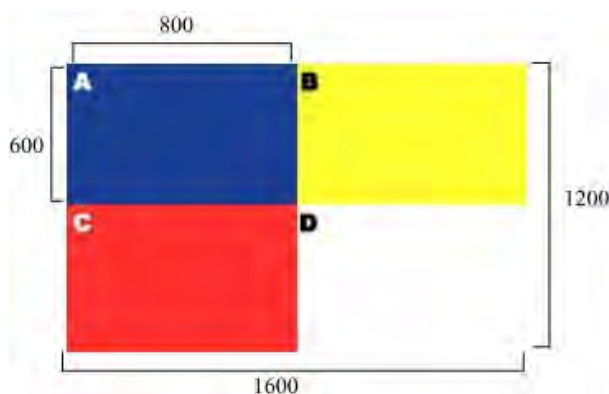
クワッド(4分割表示)モードにおいて、デフォルトで使用される最大解像度はチャンネル A に割り当てられたソースデバイスの解像度となります。チャンネル全てのサイズはこの解像度に合うようにサイズを変更されます。したがって、この解像度がソースデバイスの解像度よりも低い場合、画質が劣化することがあります。



ディスプレイに最適な解像度を選択してください。

1,280×720	1,600×1,200
1,280×960	1,680×1,050
1,280×1,024	1,920×1,200
1,360×768	1,920×1,080
1,440×900	

ご希望の解像度を選択すると、チャンネル 4 つの各サイズはそれにしたがって調節されます。例えば、解像度 1,600×1,200 を選択すると、各表示画面は 800×600 となります。



ソースデバイスの解像度がチャンネルの解像度に合わない場合、それに合うように調節され、画面の隙間部分は黒く表示されます。表示は左上固定となります。

スタートアップディスプレイモード

「Start Display Mode」(スタートアップディスプレイモード)では、CM1164 に電源が入った際に使用する画面レイアウトを設定することができます。デフォルトでは、フルスクリーンオプションのみがご利用いただけます。他のオプションを表示するには、電源検知機能(p.82「電源検知機能」参照)を無効にしてください。



電源が入った際に使用するデフォルトディスプレイモードにチェックを入れてから、「**SAVE**」をクリックして、変更を適用してください。

DCC

CM1164 は 4 台までデイジーチェーン接続することができ、最大 16 台のコンピューター間でキーボード・マウス操作を切り替えることができます。デイジーチェーン接続において、別のステーションに接続されたコンピューターを切り替える場合、キーボードとマウス操作のみがそのコンピューターに切り替わります。ビデオ信号は、別の CM1164 へは送信されないため、ビデオ表示は切り替わりません。したがって、デイジーチェーン接続をしている CM1164 それぞれに対して、モニターを接続するようにしてください。

DCC (デイジーチェーンコントロール) 画面を使用して、コンピューターが接続されているデイジーチェーン接続内のステーションを選択し、そのポート番号を選択してから、「**SELECT**」をクリックしてください。



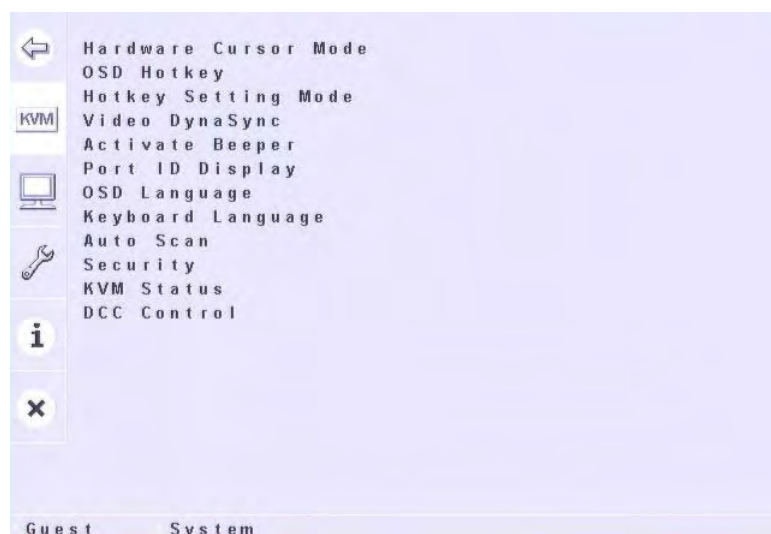
-
- 注意:**
- ◆ 画面には、デイジーチェーン接続されているステーションのみが表示されます。例えば、2 台だけをデイジーチェーン接続している場合、ステーション 3 と 4 は四角が表示されず、選択できません。
 - ◆ 別のステーションを選択した場合、OSD はそのステーションに接続したディスプレイに表示され、操作もそのステーションで行うことになります。
-

システム設定

「System Setting」(システム設定)画面は CM1164 を設定するのに使用され、「System」(システム)、「Computer」(コンピューター)、「Configuration」(設定)および「Help」(ヘルプ)の 4 つの画面に分かれています。また、サブメニューに「ヘルプ」があります。

システム

KVM 操作に関連する設定を行うには、「System」(システム)画面を使用してください。



ハードウェアカーソルモード

「Hardware Cursor Mode」(ハードウェアカーソルモード)では、チャンネルエディター機能を使用することができます。チャンネルエディター機能を有効にすると、マウスやオンスクリーンコントロールパネルを使用して、ディスプレイモードやその他の設定を変更することができます。チャンネルエディター機能の詳細については、p.51「チャンネルエディター」を参照してください。

また、ハードウェアカーソルモードを使用する際には、マウスエミュレーションを有効にしてください(p.82「マウスエミュレーション」参照)。

ハードウェアカーソルモードを有効にした場合、OSD メニュー画面を開くには、[Scroll Lock]キーを3回押してください。

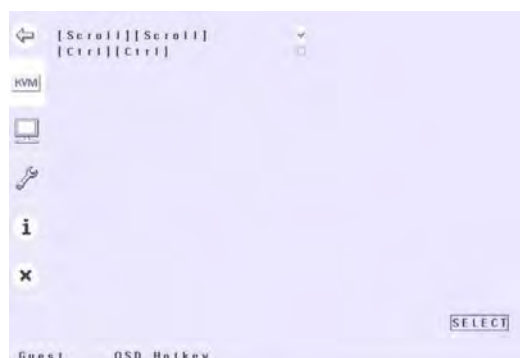


- ◆ **Enable** (有効) - チャンネルエディター機能を有効にします。
- ◆ **Channel Wheel Mode** (チャンネルホイールモード) - マウスホイールを3秒以上押したままにすることで、チャンネルエディター機能を開始します。
- ◆ **Cursor Type** (カーソルタイプ) - チャンネルエディターモードまたは OSD メニューの起動時に、マウスのカーソルの色を白色にする場合はAに、黒色にする場合はBにチェックを入れてください。こうすることで、現在使用しているマウスカーソルが、通常のPC操作用かチャンネルエディター/OSD操作用かが区別しやすくなります。
- ◆ 設定を適用するには、「**SAVE**」をクリックしてください。

通常、OSD の起動中、コンソールマウスは動作しません。ハードウェアカーソル機能を有効にすると、OSD の表示中でもマウスを使用することができるので、メニュー操作やメニューオプションの選択を簡単に行うことができます。

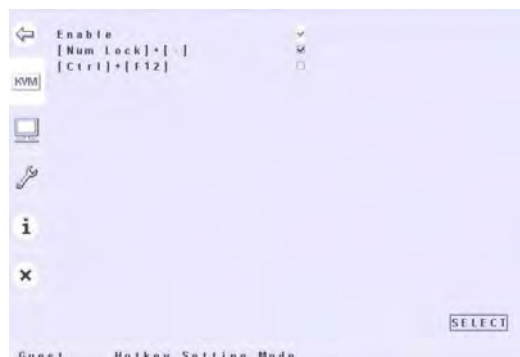
OSD ホットキー

[Scroll Lock]キーの使用がコンピューターで動作する他のプログラムと競合する場合は、[Ctrl]キーを使用して OSD メニューを呼び出すことができます。ご使用になりたいホットキーにチェックを入れてから、「SELECT」(選択)をクリックしてください。



ホットキーセッティングモード

ホットキーセッティングモードを起動する2種類のホットキーを選択することができます (p.45「ホットキーセッティングモードの起動」参照)。



- ◆ **Enable** (有効) - ここにチェックを入れると、ホットキーセッティングモードを起動するホットキーを有効にします。
- ◆ **[Num Lock] + [-]** -ホットキーセッティングモードを起動するホットキーをこのように設定する場合は、ここにチェックを入れてから、「SELECT」をクリックしてください。
- ◆ **[Ctrl] + [F12]** - ホットキーセッティングモードを起動するホットキーをこのように設定する場合は、ここにチェックを入れてから、「SELECT」をクリックしてください。

ビデオダイナシク

ビデオダイナシクは CM1164 本体にある EDID を非選択のポートのビデオソースに送信する機能で、電源を ON にした時にモニターが接続されていない、解像度が合わない、映像が表示されない等の問題を回避することができる機能です。さらにコンソールポートに接続したディスプレイの EDID を読み込んで、CM1164 本体へ保存できます。EDID とは、ディスプレイの解像度などの基本情報を含んだデータフォーマットで、ビデオソース/ディスプレイとの同期通信にて使用されます。



- ◆ **Enable** (有効) - ここにチェックを入れると、ビデオダイナシク機能を有効にします。この設定を適用するには、「SAVE」をクリックしてください。
- ◆ **Reload** (リロード) - コンソールポートに接続したディスプレイの EDID を、CM1164 に読み込んで保存します。チェックボックスをダブルクリックすると、すぐにディスプレイのデータを読み込みます。
- ◆ **Default KVM EDID** (デフォルト KVM EDID) - リロードで読み込んだ EDID を CM1164 内蔵の EDID に書きかえます。チェックボックスをダブルクリックすると、ただちにデータを内蔵 EDID に書き換えます。

注意: リロードやデフォルトの EDID に書きかえても、ビデオソースが EDID を読み直さない場合があります。その場合はビデオソースを再起動してください。

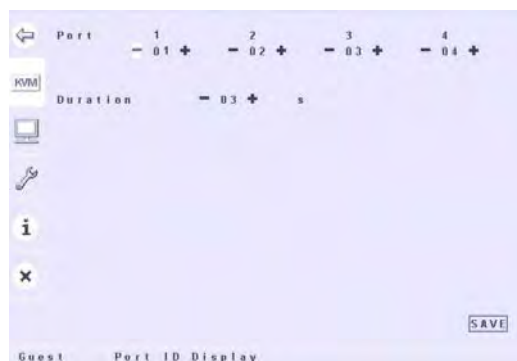
ビープ音有効

設定変更が確定したことを示すために、CM1164 がビープ音を出すようにするには、「Enable」(有効)にチェックを入れ、「SELECT」(選択)をクリックしてください。



ポート ID 表示

デフォルトのポート ID (1~4) を各ポートに使用する代わりに、異なるポート ID を割り当てることができます。これは CM1164 を 2 台以上ダイジーチェーン接続させて、コンピューター/ソースデバイスを 4 台以上使用する場合に、便利な機能です。



- ◆ **Port** (ポート) - ポートに使用するポート ID を選択するには、マイナス「-」、またはプラス「+」記号を使用してください。1~99 の番号を割り当てることができます。
- ◆ **Duration** (表示時間) - ポート ID を画面に何秒間表示させるかを選択するには、マイナス「-」、またはプラス「+」記号を使用してください。1~99 の番号を割り当てることができます。
- ◆ 設定を適用するには、「**SAVE**」(保存)をクリックしてください。

OSD 言語

OSD で使用する言語を選択してください。利用可能な言語は、英語、ドイツ語、フランス語、日本語、そして中国語(繁体字)です。設定を適用するには、「**SELECT**」(選択)をクリックしてください。



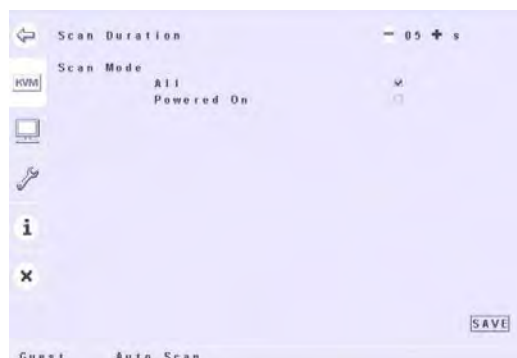
キーボード言語

コンソールキーボードで使用する言語を選択してください。オプションは英語、フランス語、そして日本語です。このオプションを使用するには、キーボードエミュレーションを有効にする必要があります(p.81 参照)。キーボード言語のオプションは、デイジーチェーン接続ではご利用いただけません。言語を選択したら、「SELECT」(選択)をクリックして、適用を反映させてください。



オートスキャン

オートスキャン機能は、ポートに接続されたコンピューター/ビデオソースを一定間隔で循環表示するので、ユーザーはポートに接続されたコンピューター全てを機械的に確認することができます。



- ◆ **Scan Duration** (スキャン時間) - 次のポートに表示が切り替わるまでの秒数を選択するには、マイナス「-」、またはプラス「+」記号を使用してください。1～99 の番号を割り当てることができます。
- ◆ **Scan Mode** (スキャンモード) - ポート全てをスキャンする場合は、「All」にチェックを入れ、電源の入ったコンピューターのみをスキャンする場合は「Powered On」(電源 ON)にチェックを入れてください。
- ◆ 設定を適用するには、「SAVE」(保存)をクリックしてください。

セキュリティ

CM1164 の OSD 画面にアクセスするためのユーザー、パワーユーザーおよびアドミニストレーターアカウントのパスワードを変更することができます。設定を適用する場合、「SAVE」(保存)をクリックしてください。デフォルトのパスワードについては、p.59 を参照してください。



注意: 各アカウントのアクセス権に関する一覧表は p.102「OSD アクセス権限の一覧表」を参照してください。パスワードについては、p.59 を参照してください。

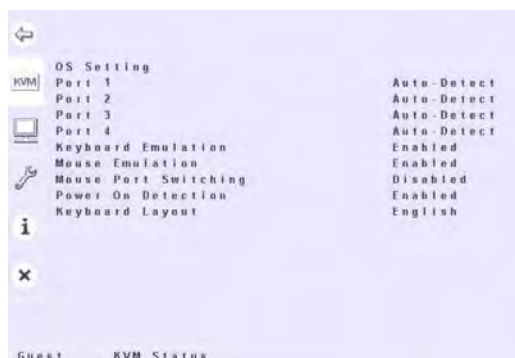
- ◆ **Enable (有効)** - セキュリティを有効にし、ユーザーアカウントを修正できます。セキュリティの有効時は、ゲストアカウントは自動的に無効になり、「Auto Login Enable」(自動ログインを有効にする)はご利用できなくなります。
- ◆ **User Password (ユーザーパスワード)** - ユーザーアカウントのパスワードを修正します。0～9の数字が使用可能です。このアカウントでは、ポートのアクセス権がありますが、システムとコンピュータの設定に制限があり、また、「システム設定」および「セキュリティ」メニューを使用することはできません。
- ◆ **Power User Password (パワーユーザーパスワード)** - パワーユーザーアカウントのパスワードを修正します。0～9の数字が使用可能です。このアカウントでは、ポートのアクセス権があり、システムおよびコンピュータの設定権が一部あります。「システム設定」メニューには制限があるため、管理者設定のいくつかの項目は設定できません。
- ◆ **Administrator Password (アドミニストレーターパスワード)** - アドミニストレーターのパスワードを修正します。0～9の数字が使用可能です。このアカウントには、OSD メニューを全て使用することができます。
- ◆ **RS232 Remote Login (RS232 リモートログイン)** - このボックスにチェックを入れると、シリアルデバイスからのログインできます(2015年6月現在、今後、使用可能予定)。

- ◆ **Auto Login Enable** (オートログインを有効にする) - このボックスにチェックを入れると、OSDメニューが起動した際にログイン画面を表示しなくなります。セキュリティを有効にすると、このオプションはご利用いただけなくなります。
- ◆ **Login Timeout** (ログインタイムアウト) - OSD への入力がない場合、自動的にログアウトするまで何分間待機するかを設定するには、マイナス「-」、またはプラス「+」記号を使用してください。1～99 の番号を割り当てることができます。



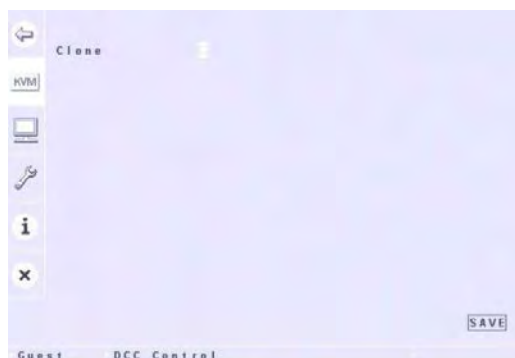
KVM ステータス

この読取専用画面は、ポートに接続されたコンピューターの OS、キーボードとマウスエミュレーションの有効/無効、マウスによるポート切替機能、電源検知機能の有効やキーボードレイアウトなどの CM1164 の現在の設定一覧を表示します。



DCC コントロール

複数台の CM1164 をダイジーチェーン接続した時に、「Clone」(クローン)にチェックを入れると、親機の CM1164 の設定内容を複製し、ダイジーチェーン接続配下の CM1164 に展開させることができます。ダイジーチェーン接続配下の子機には、「Enable」(有効)のチェックボックスが表示されます。この子機をダイジーチェーン接続から取り外す場合は、このチェックを外してください。



- ◆ 「Enable」(有効)のオプションは子機にのみ表示されます。「Clone」(クローン)のオプションは親機にのみ表示されます。
- ◆ 本製品をダイジーチェーン接続した場合、子機に対しては IR リモコンを使用することができません。

コンピューター

CM1164 のハードウェアコンポーネントに関連する設定を行うには、「コンピューター」画面を使用してください。



キーボードエミュレーション

ホットキー機能を有効にするには、キーボードエミュレーションの「**Enable**」(有効)にチェックを入れてから「**SAVE**」(保存)をクリックして、CM1164 のキーボードエミュレーション機能を有効にしてください。



-
- 注意:**
1. PC/AT キーボードでキーを組み合わせると Sun/Mac キーボードの特殊キー入力が可能となります。
 2. Sun/Mac キーボードでは、それぞれのコンピューターでしか動作しません。
-

マウスエミュレーション

CM1164 のマウスエミュレーション機能を使用するには、「Enable」(有効)にチェックを入れてから、「SAVE」(保存)をクリックしてください。ハードウェアカーソルモード、チャンネルホイールモードおよびマウスによる切替機能を使用する場合は、このマウスエミュレーションを有効にしなければなりません。



- ◆ **Mouse Switching Function** (マウス切替機能) - ここにチェックを入れると、マウスホイールを 2 回クリックすることで、現在のポートから次のポートに切り替えることができます。

注意: この機能は 3 ボタン USB ホイールマウスでのみ、ご利用いただけます。

電源検知機能

CM1164 には、KVM 操作可能なコンピューターの電源が入っていない場合、次の電源が入っているコンピューターに自動的に切り替わることができる電源検知機能があります。この機能をご使用になるには、「Enable」(有効)にチェックを入れてから「SAVE」(保存)をクリックしてください。



OS の設定

この画面ではポートに接続されたコンピューターの OS を設定して、相性問題を最小にすることができます。ポートに接続したコンピューターが特殊な OS を使用している場合、「MAC」、「SUN」または「SPC」のいずれかにチェックを入れてください。「自動検知」にチェックを入れると、CM1164 はコンピューターの OS を自動的に検知します。チェックを入れた後は、「SAVE」(保存)をクリックしてください。



USB リセット

コンソールに接続したキーボードやマウスが OSD では操作できるものの、サーバー等 PC で認識や操作ができなくなった場合は、「Enable」(有効)をクリックして、USB ポートをリセットしポートに接続された USB デバイスを初期化してください。この機能は、USB デバイスの接続問題が生じないようにするのに役立ちます。



設定

「Configuration」(設定)画面を使用して、フロントパネルにある4つのFnキーの設定やデフォルト値へのリストア、ファームウェアのアップグレードおよび OSD 設定のバックアップ/リストアをおこなうことができます。



Fn キー

「Fn Key」(Fn キー)画面に表示された「**Edit**」(編集)から表示設定を保存し、「**Selection**」(選択)から保存したディスプレイの設定値を選択することができます。Fn キーはフロントパネルのプッシュボタン、リモコンおよびホットキーから使用できます。「Edit」(編集)または「Selection」(選択)を選択してから、次ページに掲載する操作方法に従ってください。



編集

この画面ではファンクションキー (Fn1～Fn4) にディスプレイ設定を保存させることができます。このディスプレイ設定には、ポートにおける KVM 操作、オーディオや USB ハブの使用、およびディスプレイモードが含まれます。



設定を保存するには、下記の手順に従ってください。

1. KVM 操作、オーディオおよび USB ハブを使用できるコンピューターに切り替えてください。
2. ご使用になるディスプレイモードを設定してください。
3. OSD メニューを起動して、「Fn Key」(Fn キー) 画面の「Edit」(編集) 画面を開いてください。現在の設定値を割り当てたいファンクションキーにチェックを入れてから「SAVE」(保存) をクリックしてください。

選択

この画面では使用するファンクションキーを選択できます。使用するファンクションキー (Fn1、Fn2、Fn3、Fn4) にチェックを入れてから「SELECT (選択)」をクリックしてください。設定内容がすぐに反映されます。



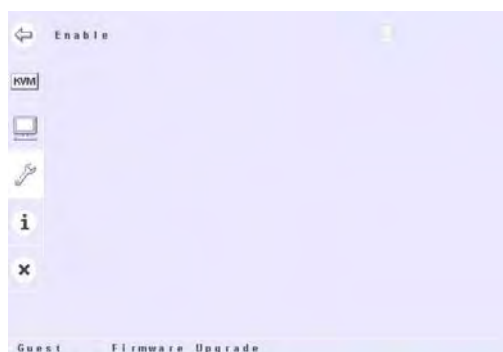
デフォルト値へのリストア

OSD メニューを工場出荷時のデフォルト設定にリストアするには、「**Enable**」(有効)にチェックを入れてください。すぐに、工場出荷時のデフォルト設定が適用されます。



ファームウェアアップグレード

ファームウェアのアップグレードを開始するには、「**Enable**」(有効)にチェックを入れてください。フロントパネルの LED がオレンジに点滅して、本製品がアップグレードできる状態になったことを表します。ファームウェアのアップグレード方法については、p.94「ファームウェアのアップグレード」を参照してください。



OSD 設定のバックアップ/リストア

この機能は、OSD 設定のバックアップおよびリストアを行うことができます。この機能を使用するには、下記の手順に従って、コンピューターを CM1164 に接続してください。「OSD Config Backup Restore」(OSD 設定のバックアップ/リストア)がクリックされると、この機能が起動し、下図のような画面が表示されます。

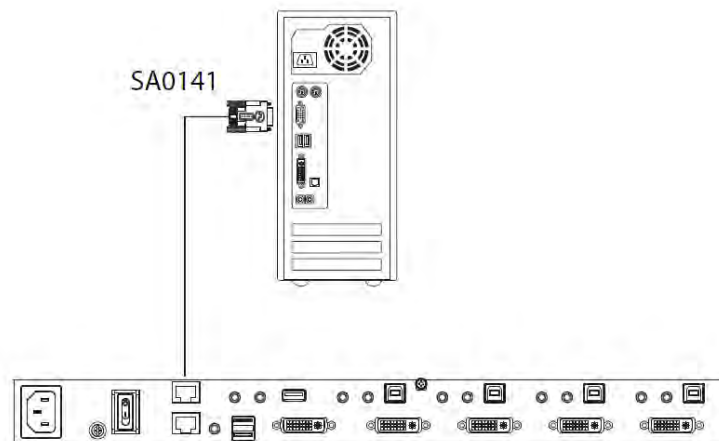


この画面を終了するには、CM1164 の電源を OFF にしてください。

バックアップ/リストア

OSD 設定をバックアップ/リストアするには、下記の手順に従ってください。

1. 弊社の Web サイトから最新のファームウェアアップグレードパッケージをダウンロードしてください。
2. ストレート結線の LAN ケーブルおよび RJ-45→DB-9 シリアルアダプター (オプション品。型番: SA0141) を使用して、コンピューターのシリアルポートと CM1164 の RS-232 入力ポートを接続してください。



ボーレート	19200 (デフォルト)
データビット	8 ビット
パリティ	None
ストップビット	1 ビット
フロー制御	None

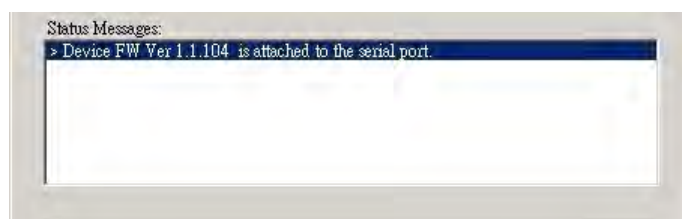
- OSD を開いて、「Configuration」(設定)→**OSD Config Backup Restore** (OSD 設定のバックアップ/リストア)を選択してください。
- 手順1でダウンロードしたファイルにある「Firmware Management Utility」(ファームウェアマネジメントユーティリティ)を実行し、「OSD Configuration Backup/Restore」(OSD 設定のバックアップ/リストア)を選択してから、「Next」(次へ)をクリックしてください。



- 次の画面では、「Connect」(接続)をクリックしてください。



- コンピューターが正しく接続されていると、「Status Messages」(ステータスメッセージ)の欄にメッセージが表示されます。

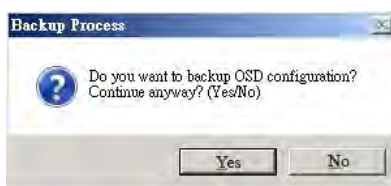


7. OSD 設定のバックアップを行うには、「Password」(パスワード)の欄に、このファイルのパスワードを入力してから、「Backup」(バックアップ)をクリックしてください。

注意:

1. パスワードの設定はオプションです。パスワードを設定しない場合、ファイルはパスワードの入力無しでリストアされます。
2. パスワードを設定した場合、次回リストア時に必要になりますので、必ずこのパスワードのメモを残すようにしてください。

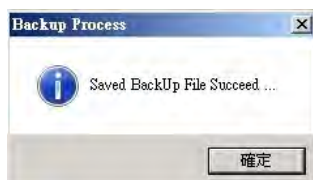
8. 確認メッセージが表示されたら、「Yes」をクリックしてください。



9. バックアップファイルの名前を入力したら、「Save」(保存)をクリックしてください。



10. バックアップが成功したことを表すメッセージが表示されます。



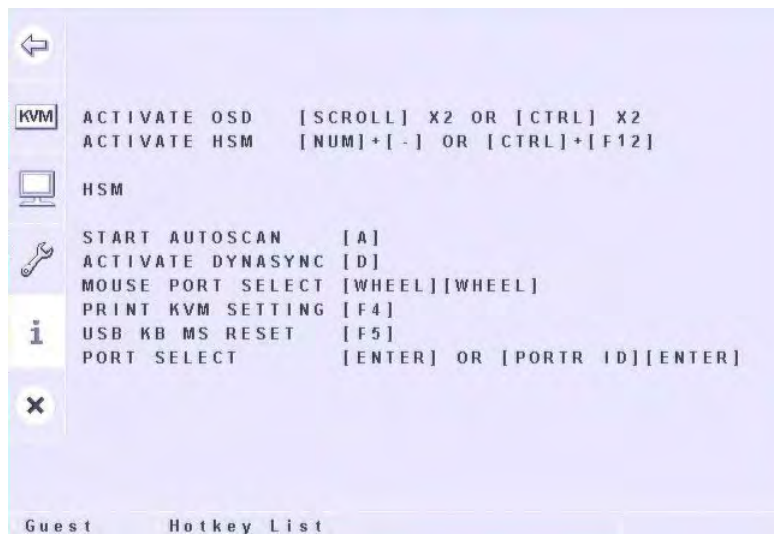
リストア方法

1. OSD 設定をリストアするには、パスワード欄にファイルのパスワードを入力してから、「**Browse**」(参照)をクリックしてください。パスワードの入力はオプションです。
2. リストアファイルを開いて、「**Yes**」をクリックしてください。
3. OSD 設定がリストアされます。

ヘルプ

「ヘルプ」画面では下記のような CM1164 に関する追加詳細を表示します。

- ◆ **Hotkey List**(ホットキーリスト) - この画面では利用可能なホットキーコマンドのリストを表示します。



- ◆ **Info**(情報) - この画面では、現在のファームウェアのバージョンと著作権情報を表示します。

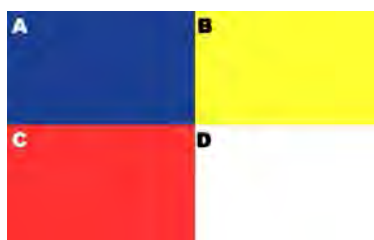


チャンネルID

選択したディスプレイモードに応じて、各ポートに接続されたコンピューターの画面は 2 分割、3 分割または 4 分割にされて表示されます。各ウィンドウに割り当てられたチャンネル ID はどのディスプレイモードで表示されてもそのままとなります。チャンネル D は画面には表示されません。

下図に、各ディスプレイモードにおけるチャンネル ID の位置を表します。

クワッドビュー (4 分割表示)



ピクチャ・イン・ピクチャ - デュアル



ピクチャ・イン・ピクチャ - トリプル



ピクチャ・イン・ピクチャ - クワッド



注意: チャンネル A の画面を他のチャンネルの画面に遮られることなく、フルスクリーンで見られるようにすることもできますが、チャンネル全ての画面がディスプレイのサイズに合うようにするため、より小さな解像度で表示されるようになります。この画面が被さらないように表示できるピクチャ・バイ・ピクチャの使用の詳細は、p.65「ピクチャ・イン・ピクチャ(デュアル/トリプル/クワッド)を参照してください。また、このことはピクチャ・イン・ピクチャのクワッドモードにも適用されます。

第7章

ファームウェアのアップグレード

CM1164 のファームウェアのアップグレードを自動化するために、ファームウェアアップグレードユーティリティと呼ばれる Windows ベースの専用ツールを提供しています。新しいファームウェアが利用できるになると、弊社ウェブサイト <http://www.atenjapan.jp/> にリリースされます。弊社ウェブサイト定期的にアクセスいただき、本製品の最新ファームウェアパッケージと関連情報を入手してください。

作業を始める前に

ファームウェアをアップグレードさせる前に、以下を行ってください。作業性から、ノート PC のご利用をお勧めします。

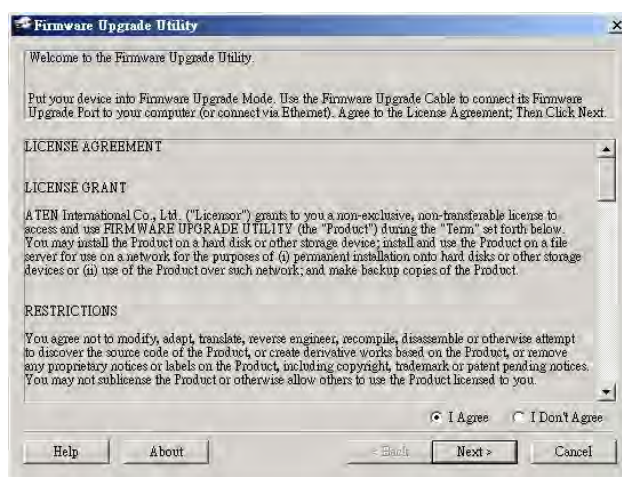
1. 作業用の PC とディスプレイ、USB タイプ A - タイプ B ケーブルをご用意ください。
2. 作業用 PC で ATEN の Web サイトから最新のファームウェアをダウンロードしてください。
3. CM1164 の OSD (p.86「ファームウェアアップグレード」参照) から「ファームウェアアップグレード」を有効にしてください。
4. 手順1で用意した PC と CM1164 のポート番号 1~4 のどれかを接続してください。
5. アプリを実行してください。成功したら CM1164 は再起動します。
6. 再起動が終わったら、手順4で接続したケーブルを元に戻して、完了です。

アップグレードの開始

1. ダウンロード済のファームウェアアップグレードパッケージファイルのアイコンをダブルクリックするか、このファイルのフルパスをコマンドラインで指定するかして、パッケージを実行してください。「Firmware Upgrade Utility」の画面が表示されます。

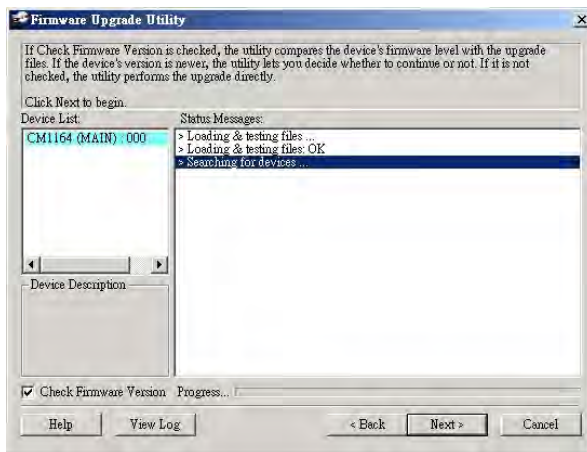


2. 「Firmware Upgrade Utility」(ファームウェアアップグレードユーティリティ)のラジオボタンを選択して、「Next」(次へ)をクリックしてください。
3. 「Firmware Upgrade Utility」の初期画面が表示されます。

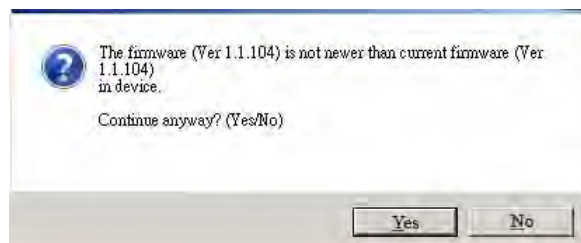


4. ライセンス使用許諾契約を確認し、同意する場合は「I Agree」ボタンを有効にしてから「Next」(次へ)ボタンをクリックしてください。

5. ファームウェアアップグレードユーティリティのメイン画面が表示されます。このユーティリティはお使いのシステム構成を自動的に検出し、このパッケージでアップグレードできる全デバイスを「Device List」パネルに一覧表示します。



6. リストの中からデバイスを選択すると、「Device Description panel」にその説明が表示されます。デバイスを選択したら、「Next」をクリックして、アップグレードを実行してください。
- 「Check Firmware Version」の項目を有効にすると、ユーティリティはデバイスとアップグレードファイルの間でファームウェアバージョンを比較します。デバイスのバージョンがアップグレードバージョンよりも新しい場合は、操作を続行する(Yes)か、キャンセルする(No)かの選択を促すダイアログが表示されます。

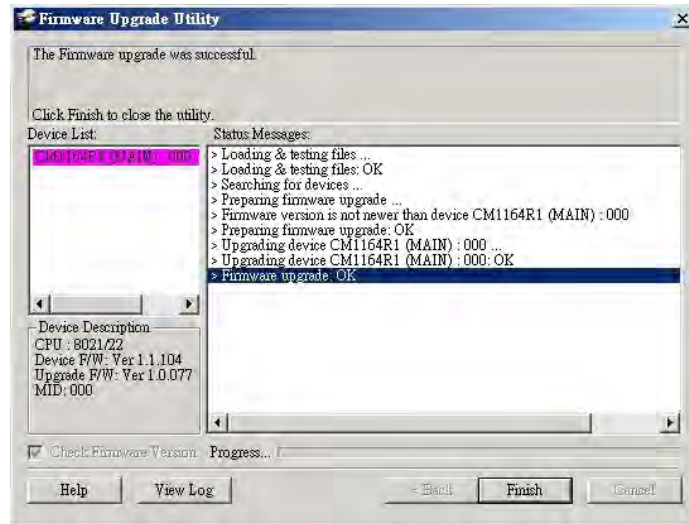


「Check Firmware Version」の項目を有効にしなかった場合、ユーティリティはバージョンの比較を行わずにアップグレードファイルのインストールを行います。

アップグレードの進行中は、「Status Messages Panel」にステータスメッセージが表示され、「プログレスバー」に処理の進捗状況が表示されます。

アップグレード成功

アップグレードが完了すると、下図のような画面が表示されて処理が成功したことを表します。



「Finish」ボタンをクリックしてファームウェアアップグレードユーティリティを終了してください。

操作が成功すると、CM1164 はファームウェアアップグレードモードを終了して、リセットを行います。リセットが完了したら、OSD から「デフォルト値へのリストア」(p.86「デフォルト値へのリストア」参照)を行ってください。

アップグレード失敗

「Upgrade Succeeded」画面が表示されない場合、アップグレードが失敗したことを表します。その場合は、下記の手順に従ってください。

1. CM1164 から電源ケーブルを外して、電源を OFF にしてください。
2. フロントパネルのモード選択ボタン(p.18 参照)を押したままにしてファームウェアアップグレードモードを起動させ、CM1164 に電源を入れてください。KVM LED がともにオレンジに点滅します。
3. ファームウェアアップグレード手順をもう一度行ってください。

付録

製品仕様

機能		CM1164
コンピューター接続数		4
コンソール接続数		1
コンピューター側 対応インターフェース	キーボード	USB
	マウス	
コンソール側 対応インターフェース	キーボード	USB
	マウス	
ポート選択方法		プッシュボタン、ホットキー、IR リモコン、OSD
コンピューター側 コネクタ	キーボード/ マウス	USB タイプ B メス×4
	モニター	DVI-D(シングルリンク)メス×4
	スピーカー	ステレオミニジャック×4
	マイク	ステレオミニジャック×4
コンソール側 コネクタ	キーボード	USB タイプ A メス×1
	マウス	USB タイプ A メス×1
	モニター	DVI-D(シングルリンク)メス×1
	スピーカー	ステレオミニジャック×2
	マイク	ステレオミニジャック×2
スイッチ	ポート選択	プッシュボタン×11
デジチェーン制御ポート		RJ-45×2
USB2.0 ハブ		USB タイプ A メス×2
電源ジャック		IEC 320×1
LED	KVM	オレンジ×4
	オーディオ	グリーン×4
	USB	グリーン×4
キーボード・マウスエミュレーション		USB

(表は次ページに続きます。)

機能		CM1164
スキャンインターバル		1～99 秒(ユーザー設定) 5 秒(デフォルト)
電源仕様		AC 100V～240V (日本仕様は PSE 対応 3P/100V 電源ケーブルを同梱)
消費電力		6.7W
VGA 解像度		1,920×1,200@60Hz (DVI-D)
動作環境	動作温度	0～40℃
	保管温度	-10～60℃
	湿度	0～80%RH、結露なきこと
ケース材料		メタル
重量		2.5kg
サイズ (W×D×H)		438×164×44mm
同梱品		DVI-D KVM ケーブル(2L-7D02U)×4 電源ケーブル×1 IR リモコン×1 クイックスタートガイド×1
対応 KVM ケーブル		《DVI-D KVM ケーブル》 2L-7D02U(1.8m) 2L-7D03U(3m) 2L-7D05U(5m) *注意:標準で DVI-D ケーブル 2L-7D02U(1.8m)×4 が付属しています。

トラブルシューティング







操作上の問題は様々な理由によって起こります。問題が発生したら、まず全てのケーブルが各ポートに正しく接続されていることを確認してください。また、製品のファームウェアをアップグレードさせることによって以前のバージョンがリリースされてから発見されたり、解決されたりした問題を解決できることがあります。現在お使いのバージョンが最新のものではない場合は、最新版のファームウェアを適用することを推奨します。詳細は、p.94 第 7 章「ファームウェアのアップグレード」をご参照ください。

問題	考えられる原因	解決方法
マウス/キーボードが反応しない。	マウス/キーボードのリセットが適切でない。	コンソールポートからキーボード/マウスのケーブルを抜いてから、接続しなおしてください。
	KVM スイッチのリセットが必要。	セットアップされたデバイス全ての電源を切ってください(p.23 参照)。KVM スイッチの電源も切り、5秒程経過した後、再び電源を入れてください。
USB デバイスが反応しない。	USB ポートのリセットが必要。	本体リアパネルの USB ポートからデバイスの USB ケーブルを一旦抜いて接続しなおしてください。
	PC または OS が USB2.0 に対応していない。	CM1164 は USB2.0 ハブを内蔵しているため、USB2.0 非対応の PC や OS には対応していません。
デバイスが認識されない (Windows)。	Windows のタイミング問題。	コンピューターの USB ポートから KVM ケーブルを抜いてから Windows のシステム設定を開き、「不明なデバイス」を削除してください。それから KVM ケーブルを元のように接続すると、Windows はデバイスを認識するようになります。
[Scroll Lock]キーを2度押ししてもポートが切り替わらない。	キーボードが[Scroll Lock]による起動に対応していない。	OSD メニューにある OSD ホットキーを[Ctrl]の2度押しに変更してください。
KVM ケーブルをホットプラグ後、モニターに何も表示されない。	DVI グラフィックカードの中にはホットプラグに対応していないものがあります。	セットアップされたデバイス全ての電源を切ってください(p.23 参照)から、CM1164 の電源を切ってください。KVM ケーブル全てが正しく接続されていることを確認した後、CM1164 の電源を入れ、コンピューターの電源を入れてください。

(表は次ページに続きます。)

問題	考えられる原因	解決方法
ポートを切り替え てもモニターに何 も表示されない。	モニターが新しい、ま たはセットアップ後に 初めて使用する。	ポートをもう一度切り替えて、PC の EDID 情報が モニターに送信されるまで 2 秒以上待機してくだ さい。
	ポート切替時に PC の EDID 情報がモニター に送られない。	[d]ホットキーを使用してビデオダイナシンクをもう 一度起動するか、別の PC に切り替えて CM1164 に再接続してください(p.49 および p.74 参照)。
GUI 接続ウィンドウ がフリーズする/接 続できない。	CM1164 のリセットが 必要。	KVM リセットを実行するか、コンピューターに最新 の CM1164 ソフトウェアを再インストールしてくださ い。

OSD アクセス権限の一覧表







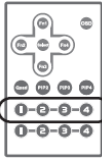
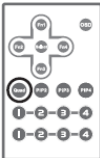
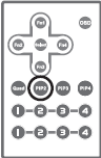
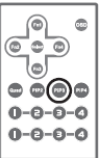
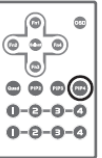







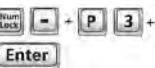
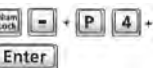
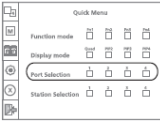
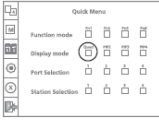
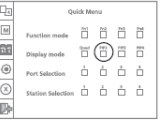
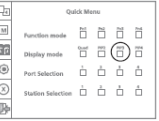

OSD メニュー画面	サブメニュー/ ファンクション	サブメニュー2/ ファンクション	サブメニュー3/ ファンクション	ゲスト	ユーザー	パワー ユーザー	アドミニス トレーター
デフォルト パスワード				000000	333333	222222	111111
OSD フロント画面 ポート選択 	ファンクションモード/ ディスプレイモード/ポ ート選択/ステーション 選択			○	○	○	○
モード 	クワッド	ポート/チャンネル選 択		○	○	○	○
	ピクチャ・イン・ピク チャ - デュアル	ポート/チャンネル選 択/アルファ/スキャン /ピクチャ・バイ・ピク チャ/チャンネルサイズ		○	○	○	○
	ピクチャ・イン・ピク チャ - トリプル			○	○	○	○
	ピクチャ・イン・ピク チャ - クワッド	ポート/チャンネル選 択/アルファ/ピク チャ・バイ・ピクチャ/チ ャネルサイズ		○	○	○	○
	チャンネルの無効	ポート選択		○	×	×	○
	4 画面解像度	1,280×720～1,920× 1,080(解像度は9種 類設定可能)		○	○	○	○
	スタートアップディス プレイモード	フルスクリーン/クワ ッド/ピクチャ・イン・ピ クチャ・デュアル/トリ プル/クワッド		○	フル スク リー ンの み 可	○	○
ステーション DCC 	ステーション/ポート選 択			○	○	○	○
システム設定 	システム 	ハードウェアカーソル モード	有効/チャンネルホイ ール/カーソルタイプ	○	×	○	○
		OSD ホットキー	[Scroll Lock]/[Ctrl]	○	×	○	○
		ホットキーセッティ ングモード	有効/[Num Lock]/ [Ctrl]	○	×	×	○
		ビデオダイナシンク	有効/リロード/デフ ォルト	○	×	×	○
		ビーブ音有効	有効	○	×	○	○
		ポートID 表示	ポート/表示時間	○	×	○	○
		OSD 言語	英語/ドイツ語/フラン ス語/日本語/中国語 (繁体字)	○	×	○	○
		キーボード言語	フランス語/英語/日 本語	○	○	○	○
		オートスキャン	スキャン時間/スキ ャンモード	○	○	○	○
		セキュリティ	有効/ユーザー・パ ワーユーザー・アド ミニストレーターのパ スワード/ログインタ イムアウト/RS232/ オートロゲイン	○	×	×	○
	KVM ステータス		○	○	○	○	
	DCC 制御	クローン	○	×	○	○	
	コンピューター 	キーボードエミュレ ーション	有効	○	×	×	○
		マウスエミュレーシ ョン	有効	○	○	○	○
		電源検知機能	有効	○	×	○	○
		OS の設定	ポート/自動検知 /MAC-SUN-SPC	○	×	○	○
		USB リセット	有効	○	○	○	○

(表は次ページに続きます。)

OSD メニュー画面	サブメニュー/ ファンクション	サブメニュー2/ ファンクション	サブメニュー3/ ファンクション	ゲスト	ユーザー	パワー ユーザー	アドミニス トレーター
システム設定  (前頁の続き)	設定 	Fn キー	修正/選択	○	×	○	○
		デフォルト値のリストア	有効	○	×	×	○
		ファームウェアの更新	有効	○	×	×	○
		OSD 設定バックアップ・リストア		○	×	×	○
	ヘルプ 	ホットキー一覧		○	○	○	○
		情報		○	○	○	○
	閉じる				○	○	○
ログアウト				○	○	○	○

ディスプレイモードの切替方法一覧表

下表は、ディスプレイモードの切替方法の一覧表です。

ディスプレイモード	フルスクリーン	クワッドビュー	ピクチャ・イン・ピクチャ - デュアル	ピクチャ・イン・ピクチャ - トリプル	ピクチャ・イン・ピクチャ - クワッド
画面					
KVM フロントパネル					ボタンを押すと、順番に切り替わります。
IR リモコン					
オンスクリーンコントロールパネル(マウス)	-				
キーボードホットキー					
OSD フロントページ					









ファンクション (Fn) キー設定方法一覧表

下表は、ファンクション (Fn) キーディスプレイモードの切替方法の一覧表です。

プリセット設定	Fn1	Fn2	Fn3	Fn4
KVM フロント パネルボタン				
IR リモコン				
オンスクリーン コントロール パネル(マウス)				
キーボード ホットキー				
OSD フロント ページ				

Mac キーボードエミュレーション



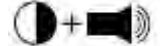




キーマッピングのエミュレーション機能により、PC 互換(101/104 キー)キーボードは Mac キーボードのファンクションキーを使用することができます。エミュレーションマッピングは下表をご参照ください。

PC 互換キーボード	Mac キーボード
[Shift]	Shift
[Ctrl]	Ctrl
	
[Ctrl] [1]	
[Ctrl] [2]	
[Ctrl] [3]	
[Ctrl] [4]	
[Alt]	Alt
[Print Screen]	F13
[Scroll Lock]	F14
	=
[Enter]	Return
[Backspace]	Delete
[Insert]	Help
[Ctrl] 	F15

注意: 上記の組み合わせでキーを入力する場合には、最初に入力するキー（[Ctrl]キー）を離してから、次のキーを入力するようにしてください。

Sun キーボードエミュレーション

[Ctrl]キーとほかのキーを組み合わせることで、PC 互換(101/104 キー)キーボードからキーマッピングのエミュレーション機能を利用して Sun のキーボードのファンクションキーを使用することができます。該当する機能については下表をご参照ください。

PC 互換キーボード	Sun キーボード
[Ctrl] [T]	Stop
[Ctrl] [F2]	Again
[Ctrl] [F3]	Props
[Ctrl] [F4]	Undo
[Ctrl] [F5]	Front
[Ctrl] [F6]	Copy
[Ctrl] [F7]	Open
[Ctrl] [F8]	Paste
[Ctrl] [F9]	Find
[Ctrl] [F10]	Cut
[Ctrl] [1]	
[Ctrl] [2]	
[Ctrl] [3]	
[Ctrl] [4]	
[Ctrl] [H]	Help
	Compose
	

注意: 上記の組み合わせでキーを入力する場合には、最初に入力するキー ([Ctrl]キー) を離してから、次のキーを入力するようにしてください。